

平成 29 年度
事業報告書

Annual report



学校法人 高田学苑

Takada Gakuen

Contents

法人の概要

・・・ 2～10

建学の精神/教育方針/設置する学校、定員及び現員/役員・評議員/
教職員数/組織構成図/校舎敷地および建物等の概要/学生・生徒志願者数推移/
在籍者数推移/進路状況

事業実績の概要

・・・ 11～19

理事会・評議員会・監事会・内部監査委員会の開催状況/監査法人監査報告
安全管理への取り組み/スクールソーシャルワーカーの導入/夏期教職員研修会（講演会）/
教職員の健康管理体制/地域社会への参加教職員の表彰/教職員の異動状況/
給付型奨学金・授業料等減免（助成）・短期大学入学金免除制度/高田学苑クラブチーム事業報告

教育活動の実績

－高田短期大学－

・・・ 20～59

時代・社会の変化に即応した取り組み
学士力向上を目指した教育課程の展開
自己点検・自己評価の取組
主体性・協調性を育む短大生活支援
キャリア教育・キャリア支援の充実
学生募集と高大交流事業
外国人留学生支援について
地域への社会貢献事業
子ども学科/キャリア育成学科 全体/オフィスワークコース/介護福祉コース
地域連携施設
仏教教育研究センター/育児文化研究センター/キャリア研究センター/介護福祉研究センター
その他の学内情報
ボランティア活動支援室
施設設備の整備事業の実績及び進捗状況

－高田中学校・高等学校－

・・・ 60～73

命の大切さを考える教育の推進/キャリア教育の推進/部活動の推進/
防災教育・危機管理教育の取り組み/教職員資質向上への取り組み/
ICT教育とアクティブラーニング対策/きめ細やかな学習指導の推進/国際交流事業/語学研修/
学校自己点検・学校関係者評価/大学等との連携事業/教職員海外研修/人権教育研修の推進/
少子化に伴う生徒募集活動/学校安全・生活指導、保健計画の推進/
施設設備の整備事業の実績及び進捗状況

財務の概要

・・・ 74～84

資金収支計算書の概要（全体・短期大学・中高等学校）
活動区分資金収支計算書の概要（全体）
事業活動収支計算書の概要（全体・短期大学・中高等学校）
平成29年度補助金一覧表
貸借対照表の概要
財産目録

法人の概要

建学の精神

本学苑は仏教精神を基として宗教的情操を培い、人間性豊かな社会人を育成することを建学の精神としている。



教育方針

短期大学

本学では「教育基本法」ならびに「学校教育法」にのっとり、本学の建学の精神・教育の理念に基づいて、少子化・子育て困難、超高齢化、そしてIT化が進行する現代社会からの要請にこたえ、高度な専門知識や技術・技能を身につけて「やわらか心」で地域社会に貢献できる保育者、介護福祉士、オフィスワーカーを育成することを教育目標としている。



中・高等学校

真宗高田派の宗門立学校として、言行忠信・表裏相応を校訓とし、仏教教育による人間味の豊かさを深め、規律精神を基とした行動力の育成と基礎学力の充実錬磨につとめ、広い視野から社会に貢献できる人材の養成をめざした教育を行っている。また、中学校・高等学校一貫六年制コースを設置し、高い水準の学力と知的な生徒を育成している。



設置する学校、定員及び現員

- ◆ 高田短期大学 三重県津市一身田豊野 195
- ◆ 高田高等学校 三重県津市一身田町 2843
- ◆ 高田中学校 三重県津市一身田町 2843

(平成29年5月1日現在)

高田短期大学					
学科名	入学定員	収容定員	1年生	2年生	合計
子ども学科	150名	300名	162名	148名	310名
キャリア育成学科	100名	200名	90名	93名	183名
〔 オフィスワークコース	〔 60名	〔 120名	〔 65名	〔 76名	〔 141名
〔 介護福祉コース	〔 40名	〔 80名	〔 25名	〔 17名	〔 42名
合 計	250名	500名	252名	241名	493名

高田中・高等学校						
	募集定員	収容定員	1年生	2年生	3年生	合計
高田高等学校	584名	1,728名	603名	602名	585名	1,790名

(学則定数730名)(3ヵ年計2,190名)

	募集定員	収容定員	1年生	2年生	3年生	合計
高田中学校	180名	540名	202名	189名	182名	573名

(学則定数240名)(3ヵ年計720名)

役員・評議員

(平成29年5月1日現在)

理事			定数10名 実数9名
区分	氏名	現職等	
第1号 宗務総長	安藤 光淵	真宗高田派 宗務総長	
第2号 学苑長 短大学長 中・高校長	高臣 文祥 栗原 廣海 梅林 久高	学校法人高田学苑 理事長(学苑長) 高田短期大学 学長 高田中・高等学校 校長	
第3号 評議員	望月 演 井村 正勝 永井 玲子 志田 行弘 岩崎 克彦	(宗)真宗高田派 光圓寺住職 井村屋グループ(株) シニア・フェロー 医療法人永井病院 理事 三重テレビ放送(株) 相談役 医療法人思源会 常務理事	

監事			定数2名 実数2名
区分	氏名	現職等	
監事	下津 和文 紀太 允	下津醤油(株) 代表取締役会長 (一社)三重県警備業協会 監事	

評議員			定数21~25名 実数21名
区分	氏名	現職等	
第1号 宗務総長	安藤 光淵	真宗高田派 宗務総長	
第2号 学苑長 短大学長 中・高校長	高臣 文祥 栗原 廣海 梅林 久高	学校法人高田学苑 理事長(学苑長) 高田短期大学 学長 高田中・高等学校 校長	
第3号 法人職員	千草 篤麿 鷺尾 敦 米田 眞 下村 尚	高田短期大学 子ども学科長 高田短期大学 キャリア育成学科長 高田中・高等学校 教頭 高田中・高等学校 教頭	
第4号 功労者	望月 演 井村 正勝 岩崎 克彦 柘植 宗隆	(宗)真宗高田派 光圓寺住職 井村屋グループ(株) シニア・フェロー 医療法人思源会 常務理事 元高田高等学校教頭	
第5号 卒業者	前畑みち代 松田 英明 倉田 栄治 伊藤 博康	高田短期大学非常勤講師、育児文化研究センター客員研究員 三重中セキ販売(株) 代表取締役社長 (株)津ドライビングスクール 代表取締役 (有)平治煎餅本店 代表取締役	
第6号 本山総務	鈴木 紀生	(宗)真宗高田派総務	
第7号 学識経験者	坪井 俊輔 永井 玲子 落合 壽 志田 行弘	弁護士 坪井法律事務所 医療法人永井病院 理事 元津市議会議員 三重テレビ放送(株) 相談役	

教職員数

(平成29年6月1日現在)

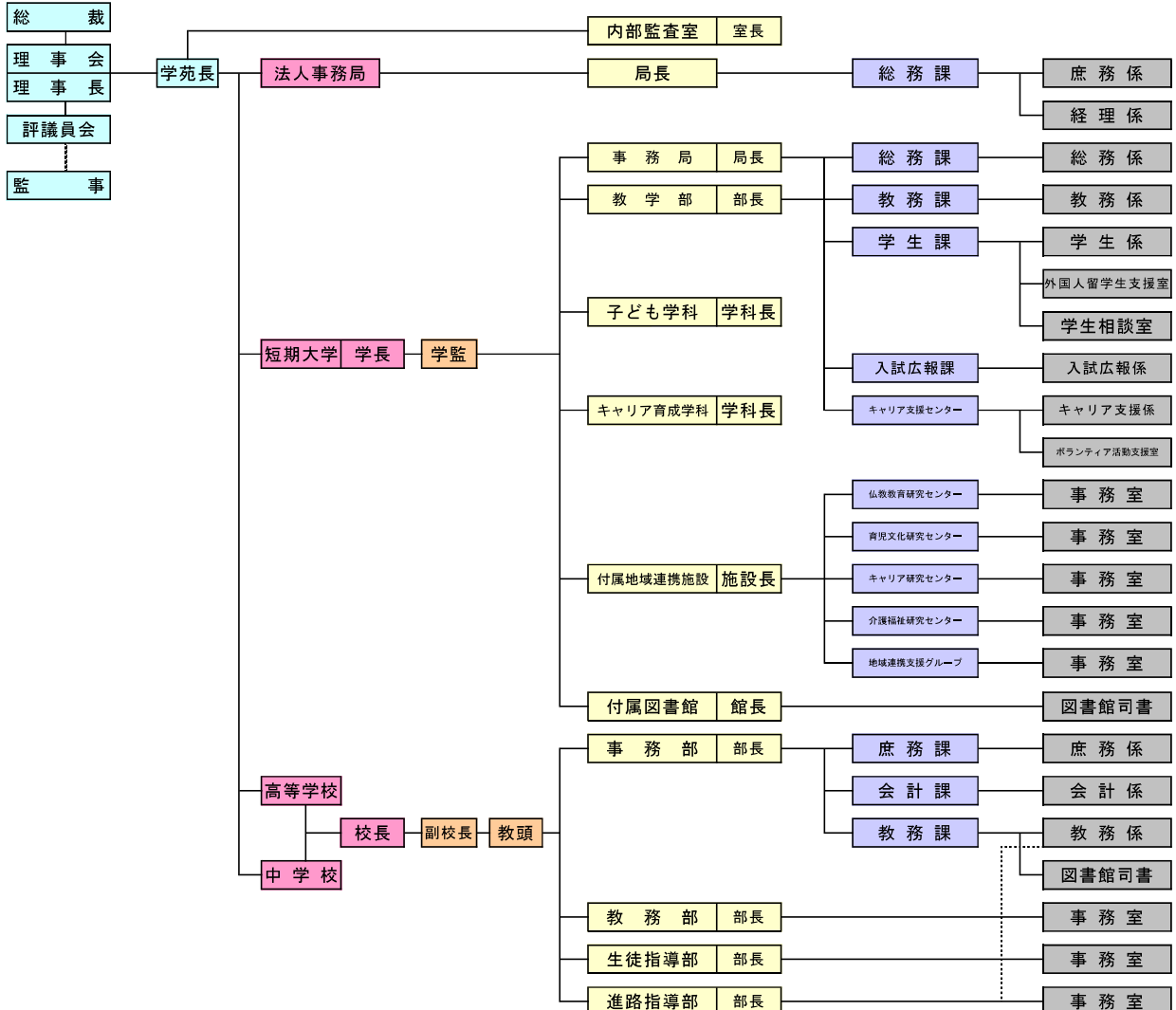
	教 員		職 員		合 計
	本務教員	兼務教員 嘱託・非常勤等	本務職員	兼務職員 嘱託・非常勤等	
本 部	—	—	6名	1名	7名
短 期 大 学	子ども学科	30名	13名	11名	67名
	キャリア育成学科	38名	7名	3名	55名
	オフィスワークコース 介護福祉コース	〔 20名 〔 18名	〔 6名 〔 1名	〔 3名 〔 0名	〔 34名 〔 21名
高等学校	99名	34名	11名	10名	154名
中学校	25名	17名	3名	0名	45名
合 計	144名	119名	40名	25名	328名

(注) 学苑長は学苑本部の本務職員に、短大学長は子ども学科の本務教員に含む。

また、短大の兼務教員数には非常勤講師の後期採用者も含む。

組織構成図

高田学苑組織構成図



校舎敷地および建物等の概要

区分		専用面積㎡	計面積㎡	所在地	権利の所属	備考
短期大学用地	校舎敷地	7,399	7,399	津市一身田豊野	自己所有	
	運動場用地	5,921	5,921	〃	〃	
	学生用駐車場用地	2,392	2,392	〃	〃	
	その他	3,279	3,279	〃	〃	緑地等
	計	18,991	18,991			
上記以外の学校用地	中学校校舎敷地	1,274	1,274	津市一身田町他	自己所有	内 借用588㎡
	高等学校校舎敷地	15,180	15,180	〃	〃	内 借用578㎡
	中学校運動場用地	14,481	14,481	〃	〃	
	高等学校運動場用地	49,169	49,169	〃	〃	内 借用3,275㎡
	その他	9,875	9,875	〃	〃	内 借用1,663㎡
	計	89,979	89,979			
合計		108,970	108,970			
校地以外の土地		61,913	61,913	津市芸濃町河内	自己所有	山林

短期大学の部

区分	面積㎡	室数	構造	権利の所属
1号館	3155.60	33	鉄筋コンクリート造陸屋根5階建	自己所有
2号館	4163.75	38	鉄筋コンクリート造陸屋根4階建	〃
3号館	1743.64	15	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
音楽棟	858.82	23	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
図書館	803.19	8	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
体育館	1983.96	15	鉄筋コンクリート造アルミニウム板葺3階建	〃
部室	31.68	2	鉄骨造2階建	〃
その他	16.98			〃
計	12757.62	134		

法人本部、高等学校・中学校の部

区分	面積㎡	室数	構造	権利の所属
本館	4721.83	36	鉄筋コンクリート造陸屋根7階建	自己所有
1号館	2722.10	25	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
2号館	2155.05	21	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
3号館	2609.31	13	鉄筋コンクリート造切妻屋根5階建	〃
4号館	3125.59	16	鉄筋コンクリート造切妻屋根5階建	〃
5号館	4113.15	29	鉄筋コンクリート造切妻屋根5階建	〃
管理棟1	207.23	5	鉄骨造ルーフィングぶき2階建	〃
管理棟2	98.88	4	鉄骨造ルーフィングぶき2階建	〃
厩舎棟	396.00	8	鉄骨造ルーフィングぶき2階建	〃
第1体育館	3819.78	16	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
第2体育館	1889.03	12	鉄筋コンクリート造切妻屋根3階建	〃
クラブハウス	422.10	29	鉄筋コンクリート造2階建	〃
プール施設棟	337.58	2	鉄筋コンクリート造2階建	〃
施設管理棟	122.40	4	鉄骨造合金メッキ鋼板ぶき平屋建	〃
その他	152.38			〃
計	26892.41	220		
合計	39650.03	354		

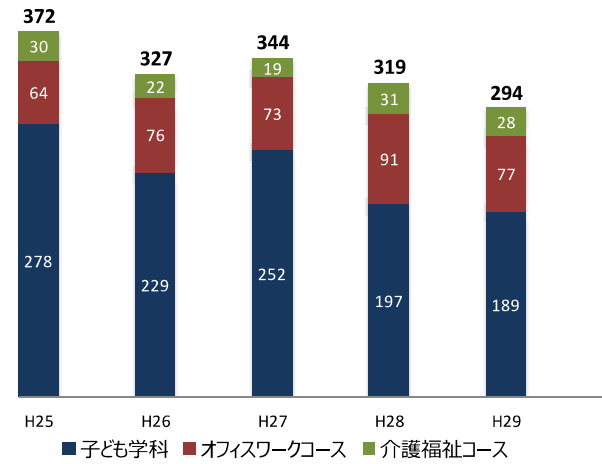
備考（その他／機械室6.62㎡ 倉庫東、西47.95㎡ 渡り廊下67.50㎡ テニスコート部室30.31㎡）

学生・生徒 志願者数 推移

短期大学

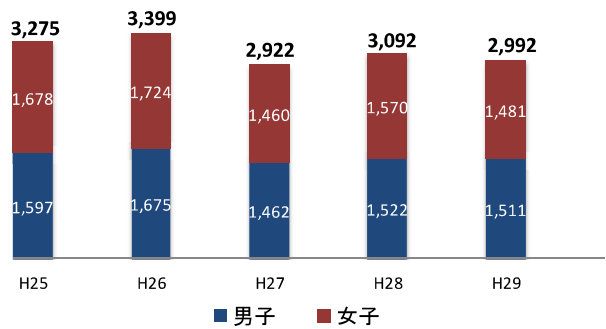
(平成29年5月1日現在)

	H25	H26	H27	H28	H29
子ども学科	278	229	252	197	189
キャリア育成学科 オフィスワーク コース	64	76	73	91	77
キャリア育成学科 介護福祉コース	30	22	19	31	28
計	372	327	344	319	294



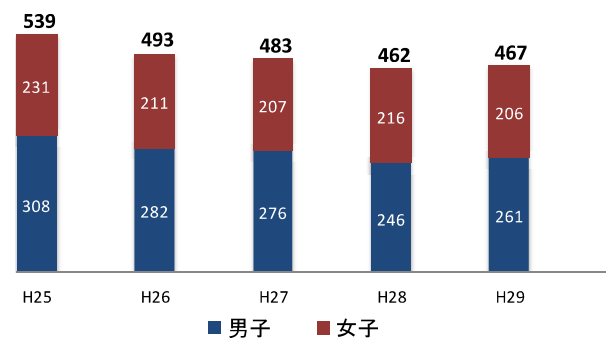
高等学校

	H25	H26	H27	H28	H29
男子	1,597	1,675	1,462	1,522	1,511
女子	1,678	1,724	1,460	1,570	1,481
計	3,275	3,399	2,922	3,092	2,992



中学校

	H25	H26	H27	H28	H29
男子	308	282	276	246	261
女子	231	211	207	216	206
計	539	493	483	462	467



学生・生徒 在籍者数 推移

短期大学

(平成29年5月1日現在)

区分	項目	H25	H26	H27	H28	H29	
子ども学科	在学生数	316	314	313	313	310	
	収容定数	300	300	300	300	300	
	充足率	105%	105%	104%	104%	103%	
キャリア育成コース	在学生数	104	121	117	130	141	
	収容定数	120	120	120	120	120	
	充足率	87%	101%	98%	108%	118%	
介護福祉コース	在学生数	38	42	35	40	42	
	収容定数	80	80	80	80	80	
	充足率	48%	53%	44%	50%	53%	
計	在学生数	458	477	465	483	493	
	収容定数	500	500	500	500	500	
	充足率	92%	95%	93%	97%	99%	

中・高等学校

(平成29年5月1日現在)

区分	項目	H25	H26	H27	H28	H29	
高等学校	在學生数	1,801	1,838	1,797	1,783	1,790	
	収容定数	1,695	1,705	1,690	1,714	1,728	
	充足率	106%	108%	106%	104%	104%	
中学校	在學生数	605	600	574	561	573	
	収容定数	600	600	580	560	540	
	充足率	101%	100%	99%	100%	106%	
計	在學生数	2,406	2,438	2,371	2,344	2,363	
	収容定数	2,295	2,305	2,270	2,274	2,268	
	充足率	105%	106%	104%	103%	103%	

学生・生徒 進路状況

卒業生・進学者・就職者数

(平成30年5月1日現在)

	子ども学科	キャリア育成学科		合計	摘要
		オフィスワーク	介護福祉		
卒業生	146	75	16	237	
就職希望者	145	71	16	232	
就職決定者	145	71	15	231	
未内定者	0	0	1	1	
進学者	1	1	0	2	大学編入・専門学校等
その他	0	3	0	3	家事従事等

過去3ヶ年の公務員試験合格者

●子ども学科

市町名	職種	現役学生			卒業生			計		
		H29	H28	H27	H29	H28	H27	H29	H28	H27
津市	保育士	7	2	2	7	5		14	7	2
桑名市	保育教育職					1			1	
四日市市	保育士	1			2	2	2	3	2	2
伊勢市	保育士	1	1	1	1	1	1	2	2	2
松阪市	保育士・幼稚園教諭	4	2	1	4	1	2	8	3	3
鈴鹿市	保育士・幼稚園教諭	1		1	2			3		1
亀山市	保育士・幼稚園教諭		1		1			1	1	
鳥羽市	保育士	1		1		2	1	1	2	2
志摩市	保育士・幼稚園教諭		3	1	2			2	3	1
東員町	保育士・幼稚園教諭	1						1		
伊賀市	保育士・幼稚園教諭			1						1
名張市	保育士・幼稚園教諭					1			1	
菰野町	保育士・幼稚園教諭				1			1		
多気町	保育士			3	1			1		3
明和町	保育士・幼稚園教諭	2		1	2			4		1
大台町	保育士	1		1		1		1	1	1
玉城町	保育士	1			1	1		2	1	
大紀町	保育士		1			2			3	
新宮町	保育士・幼稚園教諭		1						1	
計		20	11	13	24	17	6	44	28	19

●キャリア育成学科 オフィスワークコース

採用試験名	職種	現役学生			卒業生			計		
		H29	H28	H27	H29	H28	H27	H29	H28	H27
県・市町	事務		1						1	
警察	事務		1						1	

主な就職先・配属先

(平成30年5月1日現在)

子ども学科	(公立) 鷺方幼稚園 安濃幼稚園 高岡幼稚園 ゆりかご園 神辺保育園 高茶屋保育園 朝上保育園 わかば保育園 千里が丘保育園 ひとみね保育園 志摩幼保園他 (私立) あおい幼稚園 白百合幼稚園 津西幼稚園 道伯幼稚園 まつさか幼稚園 亀山愛児園 ハートピア保育園 藤水認定こども園 たいすい保育園 豊野保育園他
キャリア育成学科	赤塚植物園グループ (株)川崎ハウジング 積水ハウス(株) (株)ピコ・ナレッジ (株)サイネックス制作本部 三重金属工業(株) (株)日本陸送 旭工機(株) (株)第三銀行 (株)百五銀行 (株)三重銀行 (株)トヨタレンタリース三重 百五不動産調査(株) 鈴鹿回生病院 トヨタカローラ三重(株) 津眼科 他
	安濃聖母の家 いこいの森 かすみの里 かなしょうず園 聖愛園 洗心福祉会 高田光寿園 報徳園 こころの結 いなば園 他

高等学校

卒業者・進学者・就職者数

		男	女	計
三年制	I類	97	128	225
	II類	91	76	167
六年制		113	80	193
計		301	284	585

進学合格者のべ数

		三年制				小計	六年制		小計	合計
		I類		II類			現	卒		
		現	卒	現	卒					
大学 四年制	国立	0	0	9	1	10	66	32	98	108
	公立	0	0	11	1	12	13	3	16	28
	私立	161	3	227	30	421	259	127	386	807
文部科学省所管外		0	0	0	0	0	3	0	3	3
海外		0	0	0	0	0	0	0	0	0
短大	公立	4	0	17	0	21	0	0	0	21
	私立	43	1	4	0	48	0	0	0	48
国公立各種・専門学校		3	0	4	0	7	0	0	0	7
私立各種・専門学校		48	0	12	0	60	0	0	0	60
就職		5	0	3	0	8	0	0	0	8
合計		264	4	287	32	587	341	162	503	1090

主な進学先

(平成30年4月4日現在)

国公立大学 136名		(医学科 21)	
東京大学 8	大阪大学 3	一橋大学 3	静岡大学 3
京都大学 5	北海道大学 6	富山大学 3	三重大学 32
(医学科 0)	(医学科 1)	(医学群 1)	(医学科 13)
名古屋大学 10	高知大学 3	琉球大学 1	名古屋市立大学 8
(医学科 1)	(医学科 2)	(医学科 1)	(医学科 1)
私立大学 807名		(医学科 42)	
慶應義塾大学 16	中央大学 14	関西大学 25	南山大学 14
明治大学 18	東京医科大学 4	近畿大学 19	中京大学 38
早稲田大学 30	上智大学 2	同志社大学 31	名城大学 34
東京理科大学 9	立命館大学 36	愛知医科大学 10	法政大学 6
青山学院大学 4	日本大学 6	京都産業大学 6	龍谷大学 11
関西学院大学 12	愛知大学 17	皇學館大学 64	鈴鹿医療科学大学 35
短期大学 69名		所管外大学校等 3名	
高田短期大学 37	三重短期大学 21	防衛大学校 1	防衛医科大学校 2
専修学校 67名			
三重看護専門学校 9	三重中央看護学校 7	松阪看護専門学校 4	ユマニテク看護助産専門学校 3

事業実績の概要

理事会・評議員会・監事会・内部監査委員会の開催状況

平成29年度は高田学苑寄附行為に基づき、計5回の理事会、3回の評議員会を開催しました。また、高田学苑では私立学校に義務付けられている監査法人及び監事の監査に加え、内部監査委員による監査を行い、学校法人におけるガバナンスが適切に機能しているか、外部及び内部から監督・指導を受けています。平成29年度に既に行われた各会の開催日と議題は以下になります。

理事会	第1回	平成29年 5月26日(金)	平成28年度決算(案)の承認について
	第2回	平成29年 5月26日(金)	平成28年度決算の承認について
	第3回	平成29年11月 7日(火)	平成29年度第1回収支補正予算(案)について
	第4回	平成30年 3月27日(火)	中高サブアリーナ建設工事に係る予定価格の決定について 中高サブアリーナ建設工事に係る請負業者及び請負金額の決定並びに請負契約の締結について 平成29年度第2回収支補正予算(案)について 平成30年度収支当初予算(案)について 学校法人高田学苑給与規程の一部改正(案)について 学校法人高田学苑経理規程の一部改正(案)について 学校法人高田学苑定年規程の一部改正(案)について 学校法人高田学苑教職員旅費規程の一部改正(案)について 学校法人高田学苑再雇用職員(講師及非常勤職員)及び 嘱託・非常勤講師等勤務規則の一部改正(案)について 高田短期大学学則の一部改正(案)について 高田短期大学試験に関する規程の一部改正(案)について 高田短期大学外国人学生規程の一部改正(案)について 高田短期大学学生の聴講規程の一部改正(案)について
	第5回	平成30年 3月30日(金)	学苑長の任期満了に伴う任免について 理事長の選任について
評議員会	定 時	平成29年 5月26日(金)	平成28年度決算(案)の承認について
	臨 時	平成29年11月 7日(火)	平成29年度第1回収支補正予算(案)について
	定 時	平成30年 3月27日(火)	平成29年度第2回収支補正予算(案)について 平成30年度収支当初予算(案)について
監事会	決算期	平成29年 5月24日(水)	平成28年度短期大学及び中高等学校教学監査 平成28年度事業実績報告 平成28年度決算審査関係 質疑応答
	上半期	平成29年11月 1日(水)	平成29年度短期大学及び中高等学校概要報告 平成29年度第1回補正予算書及び現預金状況 平成29年度事業実績報告(中間) 質疑応答及び実査
内部監査委員会	第1回	平成29年 5月19日(金)	平成28年度短期大学及び中高等学校教学監査 平成28年度事業実績報告 平成28年度決算概要報告 質疑応答
	第2回	平成29年10月27日(金)	平成29年度短期大学及び中高等学校概要報告 平成29年度事業実績報告(中間) 現金、預金及び有価証券の状況 学苑管理運営等について

監査法人監査報告

監査法人監査		監査法人名：五十鈴監査法人	
4月 4日（火）現金、通帳、証書の実査		12月 7日（木）平成29年11月までの取引記録	
5月 17日（水）平成28年度決算監査①		1月 9日（火）平成29年12月までの取引記録	
5月 18日（木）平成28年度決算監査②		2月 9日（金）平成30年1月までの短大取引記録	
6月 2日（金）平成28年度決算監査③		3月 6日（火）平成30年2月までの取引記録	
9月 13日（水）平成29年8月までの取引記録			

安全管理への取り組み

AED（自動対外式除細動器）設置（8台）

短期大学	
1号館 1階正面玄関	
中・高等学校	
本館 正面玄関（地域住民への対応）	西グラウンド管理棟 1 2階管理室
4号館 1階保健室	西グラウンド管理棟 2 2階管理室
第1体育館 2階体育教室	西グラウンド厩舎棟 1階管理室前（外部）
	多目的グラウンド クラブハウス横倉庫



地域避難所（体育館）の指定・防災倉庫の設置

高田学苑は津地域避難所として指定されています。これに伴い短期大学及び中・高等学校に防災倉庫を設置し、備蓄品の保管をしています。

生徒・教職員は勿論のこと地域住民の皆様方の、災害時における危険回避のための避難が円滑に行われるように、避難場所の周知を行っています。



非常食等の備蓄

本学が位置する三重県では、近い将来南海トラフ巨大地震の発生が危惧されています。東日本大震災、熊本地震の教訓を生かし、さまざまな取り組みを行っています。その中の一つとして、いつ、どこで起こるかかわからない災害に備え、本年度も新入生の学生生徒分の非常食等備蓄品（白い小箱）を購入しました。

この「白い小箱運動」は単なる非常食等備蓄品の保管に留まらず、詰め込み・搬入作業を行う障がい者の方々の就労支援や、備蓄品を学生生徒が卒業時に寄付する事で、海外で援助を必要としている人たちや周辺地域の方々への援助など、社会貢献活動として意義のあるものとなっています。



緊急地震速報受信システムの運用

平成22年12月より中・高等学校及び短期大学に緊急地震速報受信システムを導入しています。これは震度5弱以上の地震が発生した場合、津地区に大きな揺れが到達する前に、校内に一齐放送で知らせることにより、生徒及び教職員の安全を確保するものです。

防災訓練では実際にこのシステムを利用して、震度5弱の地震を想定した放送を流し、生徒・教職員及び地域住民の方の避難訓練に役立てています。



ポケット防災ガイドの配布

大規模な地震が発生すると予想されている昨今、地震発生時に学生生徒及び教職員がスムーズに避難できるように災害発生時の対応をマニュアル形式で記載した名刺サイズの防災ガイドを、短期大学・高等学校別に作成し、新入生と本年度採用教職員に配布しました。

近年は地震のみならず台風や大雨などによる甚大な被害も全国各地で起きていることから、地震・津波・風水害・火災それぞれに対応できるよう色分けをして記載し、津波に関する部分をより詳細な記載に変更しました。

学生生徒及び教職員はこの防災ガイドを常に携帯し、今後災害発生時の対応に役立ててくれるよう啓蒙活動にも力を入れていきます。



緊急災害時避難場所開設フローチャート

中・高等学校が津市の地域防災一次避難所に指定され、防災倉庫が設置されたことにより、高田学苑においても周辺地域の避難場所としての責務に応える必要があります。

緊急災害時の混乱が予想される状況において、迅速に避難所を開設するために、「緊急災害時避難場所開設フローチャート」を掲示しています。このチャートを事務職員の意識付けに役立て、緊急災害時における迅速な避難場所の開設に役立てていきたいと思えます。



非常食等備蓄品（白い小箱）の寄付

本学苑では、日本非常食推進機構と締結した「災害用物資を活用した防災活動に関する協定」に基づき、学生・生徒が卒業時に白い小箱を寄付することで地域の方々や食糧援助を必要とする海外に援助を行う「白い小箱運動」に参加しています。

先述の一身田自治会との合同防災訓練の冒頭に、地域の方へ「白い小箱」の贈呈式を行いました。「白い小箱」は各自治体の代表者に贈呈され、今回防災訓練に参加して頂いた約100名の方へ寄付をしました。

また、本年度は、日本非常食推進機構を通じて社会福祉法人三重県厚生事業団へ白い小箱200個、津市へ163個の寄付をしました。8月25日（金）の贈呈式においては学苑代表として高校生徒会より手渡し、それぞれの機関から障害者及び児童養護施設や生活困窮者へ届けられます。

10月6日（金）には、同じく日本非常食推進機構を通じてフィリピンの孤児院へ300個の白い小箱を寄付いたしました。



スクールソーシャルワーカーの導入

本年度より三重県教育委員会に特別職非常勤職員としても勤務されている藤澤 香津子氏を本学苑のスクールソーシャルワーカーとして迎え、問題を抱える生徒が置かれた環境への働きかけや学校におけるチーム支援体制の構築、関連機関との連携に力を入れて取り組みを行いました。また、スクールカウンセラーとも連携して生徒の心のケアとの両面から支援を今後も継続していきます。

夏期教職員研修会（講演会）

例年実施しております教職員研修会が、8月18日（金）高田高等学校本館の講堂において、教職員約200名を対象に今年も盛大に開催されました。

高田学苑長の挨拶から始まり、第一部は自身も聴覚障害を持ち、自ら経験したことを踏まえ聴覚障害についての啓発活動をされている三重県立聾学校教諭の櫻井誠人氏を講師に迎え、「いま、伝えたいこと～難聴者の一人として～」と題した講演を行っていただきました。

櫻井氏自身の難聴者としての経験や聾学校での教育活動とコミュニケーション方法など実例に基づき、聞こえないということはどういうことなのかを図やイメージ画像を使い丁寧にお話しされ、また、聾学校の実際の教育活動風景を動画で紹介していただき、難聴という障害への正しい理解と配慮をすることが教育的支援、社会的支援に繋がることだと教えていただきました。



第二部は三重県教育委員会の特別職非常勤職員であり、高田学苑のスクールソーシャルワーカーとしても勤務していただき、本校教職員と協力し問題に取り組んでいる藤澤香津子氏にお越しいただきました。

今日の児童生徒の不登校、いじめや暴力行為等の問題行動、子どもの貧困、虐待等の背景には、児童生徒の心理的な課題と共に、家庭、友人関係、学校、地域など児童生徒の置かれている環境に課題がある事案も多く、様々な要因が複雑に絡み合い、学校だけでは問題の解決が困難なケースも多くなっています。

「スクールソーシャルワーカーの効果的な活用について」と題した今回の講演では、教育分野に関する知識に加え、社会福祉等の専門的な知識や経験を有するスクールソーシャルワーカーと学校の教職員がチームを組んで児童生徒のさまざまな情報を整理統合し、アセスメントやプランニングを行い、問題を抱えた児童生徒の支援をする事が重要であると説明していただきました。生徒への新しい支援方法のひとつとなった今回の講義は教職員にとって非常に興味深い内容であり、質問も数多く寄せられていました。



教職員の健康管理体制

健康診断・任意検診

平成23年度より夏期休暇中に実施をしている健康診断を本年度も8月1日（火）、2日（水）、3日（木）の3日間で開催しました。検査項目については学校保健法、結核予防法、労働安全衛生法などで定められた項目を遵守し、教職員約200名が受診しました。また、前立腺がん検診、腹部エコー検診、乳がん検診（エコー）、そして今年度より新たに加わった任意検査項目の子宮頸がん検査といった任意検診も希望者は同時に受診しました。検査結果は個人に直接通知され、教職員の健康管理に役立てると共に、この結果をもとに高田学苑産業医である岩崎病院に健康管理に役立つ適切な指導・助言を行っていただいております。



ストレスチェック

労働安全衛生法の改正により平成27年12月から事業所に義務付けられ、メンタルヘルス不調を未然に防ぐ目的から今年度も6月1日（木）より一ヶ月間、ストレスチェックをウェブ上で実施しました。教職員は質問項目に回答し、結果は産業医の先生にデータで送られ、医師などの実施者がストレスの程度を評価し必要に応じて教職員自身のストレスへの気づきを促すとともに職場環境の分析と改善に繋げていきます。

インフルエンザ予防接種

昨年度に引き続き、毎年猛威をふるうインフルエンザ対策として、三重県健康管理事業センターに来ていただき、学苑内にて予防接種を12月13日（水）、12月18日（月）の2日間に分けて実施しました。前年同様に予防接種の費用は学苑が一部負担し、105名が接種しました。

地域社会への参加

「みえの子ども応援プロジェクト」への協賛

平成23年4月に制定された「三重県子ども条例」を基に、結婚や妊娠・子育てなどの希望がかない、すべての子どもが豊かに育つ三重を目指して人的・物的・資金的支援を進めている三重県の「みえの子ども応援プロジェクト」の取組みに対して高田学苑としても協賛を行い、次世代を担う地域の子どもたちへの支援を行っています。



津市災害時応援協定

本学苑の高田中・高等学校の五号館校舎が津市の津波避難協力ビルに指定され、一時的な避難の場として活用されることとなります。そのことに係る協定の調印式が10月11日（水）に津市役所で行われました。



教職員の表彰

特別表彰	11月6日(月)
中・高等学校	1名

永年勤続表彰		
短期大学	11月13日(月)	計 3名
20年勤続	1名	
15年勤続	1名	
10年勤続	1名	
中・高等学校	11月 6日(月)	計25名
40年勤続	2名	
35年勤続	3名	
30年勤続	6名	
25年勤続	1名	
20年勤続	4名	
15年勤続	2名	
10年勤続	7名	

教職員の異動状況

平成29年度に採用・退職された教職員は以下のとおりです。

		採用			退職	
		新規採用	再雇用	任用替	再雇用	完全退職
短期大学	教授	2				
	准教授					1
	助教	1				
	本務職員					1
	特任教授		1			1
	特任助教			1		1
	嘱託職員		1			4
	非常勤職員					
中・高等学校	教諭	1		4	4	4
	本務職員			2		1
	A L T	1				
	講師					
	講師嘱託	1				
	嘱託職員					
	非常勤講師	3	1			4
	非常勤職員	1				

給付型奨学金・授業料等減免（助成）・短期大学入学金免除制度

高田学苑では、保護者や学生の経済的な負担を軽減する目的から、各種奨学金・授業料等減免制度を設けています。なお、これらの奨学金は給付型であり、すべて返済不要です。

短期大学

高田短期大学奨学金	
対象	子ども学科およびキャリア育成学科オフィスワークコース学生
目的	建学の精神に照らし、経済的に学業の継続が困難と判断され、学業・人物に優れた学生に対して奨学金を給付し、学業奨励を支援する。
決定者	28名（子ども学科22名、オフィスワークコース6名）
奨学金額	4,200,000円（年額20万円14名、年額10万円14名）
高田短期大学介護福祉士就労予定者奨学金	
対象	キャリア育成学科介護福祉コース学生
目的	建学の精神に照らし、特に学業・人物に優れた学生で卒業後介護施設に就職する予定であるすべての学生（外国人留学生を除く）を支援する。
決定者	25名（1年生10名、2年生15名）
奨学金額	5,000,000円（一人あたり年額20万円給付）
高田短期大学奨学金私費外国人留学生授業料等減免措置	
対象	高田短期大学に在学する私費外国人留学生
目的	授業料・施設設備整備費・教育充実費等の経済的負担を減免する。
決定者	22名（減免22名（減免率50%））
奨学金額	7,800,000円

高等学校

高田高等学校授業料等生徒納付金助成					
対 象	高田高等学校に在籍する生徒の保護者				
目 的	授業料等生徒納付金を無償化または減額し、保護者の経済的負担の軽減を図る。				
決 定 者		I・4年	II・5年	III・6年	合 計
	授業料等生徒納付金が無償となる世帯	40名	31名	35名	106名
	授業料等生徒納付金が減額となる世帯	25名	32名	36名	93名
	合 計	65名	63名	71名	199名
奨学金額	12,708,500円				

※授業料等生徒納付金とは授業料と教育充実費の合計です。

なお、無償または減額となる基準は、高等学校等就学支援金の基準（保護者の所得状況）に準じます。

また、高田高等学校を卒業し高田短期大学に入学する場合、入学金（28万円）が免除される入学金免除制度もあります。過去3カ年の高田高等学校からの進学者数は以下のとおりです。

	27年度入学	28年度入学	29年度入学
人 数	39名	37名	38名

高田学苑 クラブチーム事業報告

平成29年度 みえ高田FC 活動報告			
【 所属人数 】			
H29年度	9名		
現在	21名 (中3 1名 ・ 中2 12名 ・ 中1 8名)		
【 試合結果 】			
大会名	日程	対戦相手	結果
三重県女子サッカーリーグ 1部リーグ 前期	6/4	ヴィアティン三重 レディース	0-5●
	6/4	FCミナス	0-1●
	8/26	四日市西高校	9-0○
	10/1	三重高校	0-0△
	11/18	楠クラブレディース	3-1○
※三重県女子サッカーリーグ 1部リーグ 前期 3位			
三重県女子サッカーリーグ 1部リーグ 後期	1/14	三重高校	6-0○
	1/21	FCミナス	3-0○
	2/4	楠クラブレディース	3-0○
	2/10	高田短期大学	1-0○
	2/25	ヴィアティン三重 レディース	1-7●
※三重県女子サッカーリーグ 1部リーグ 後期 2位			
第39回皇后杯全日本女子サッカー 選手権大会三重県予選	9/3	津田学園高校	5-0○
	9/10	伊賀FCノーステライト	0-2●
※2回戦敗退			
第22回全日本女子ユース(U-15) サッカー選手権大会三重県予選	5/3	楠クラブレディース	0-3●
	5/5	伊賀FCノーステライト	3-1○
	5/6	伊勢FC Puro	6-0○
※第2代表 東海大会出場権獲得			
第22回全日本女子ユース(U-15) サッカー選手権大会東海大会	6/10	名古屋フットボールクラブ ルミナス	1-4●
※1回戦敗退			



平成29年度 みえ高田VC Sala 活動報告

【 所属人数 】			
H29年度	33名(短大生11名含む)		
現在	33名(短大生15名含む)		
【 試合結果 】			
大会名	日程	対戦相手	結果
中部日本6人制バレーボール 総合男女選手権大会三重県予選	6/4	志摩クラブ	2-0○
		KUSUクラブ	2-0○
		鈴鹿大学	2-1○
		※大会優勝し、中部総合大会へ出場	
天皇杯・皇后杯全日本バレーボール 選手権大会 三重県ラウンド	7/2	鈴鹿大学	2-0○
		KUSUクラブ	2-0○
		皇學館大学	2-0○
		※大会優勝し、三重県代表として東海ブロックラウンドへ出場	
第67回中部日本6人制バレーボール 総合男女選手権大会	7/16	金城大学(石川県代表)	1-2● ※1回戦敗退
全日本6人制バレーボールクラブカップ 女子選手権大会 予選	8/11	鹿屋体育大学(鹿児島)	0-2●
		Glory(徳島)	2-0○
		※決勝トーナメントへ	
全日本6人制バレーボールクラブカップ 女子選手権大会 予選	8/12	大口クラブ(神奈川)	2-0○
		福井クラブ(福井)	0-2● ※2回戦敗退
天皇杯・皇后杯全日本バレーボール 選手権大会東海ブロックラウンド	9/2	中京大学	0-2● ※1回戦敗退
平成29年度第14回東海6人制 クラブバレーボール男女選手権大会	11/26	栄クラブ(静岡)	0-2● ※1回戦敗退



教育活動の実績 — 高田短期大学 —

時代・社会の変化に即応した取り組み

1 学士力向上を目指した教育課程の展開

共通教養科目の充実に向けて

「ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）」の「共通到達目標（全学的学修成果）」に対応するため、現在12科目の「共通教養科目」を設置していますが、平成31年度からは、より幅広い教養を育むため、新たに自然科学分野及び社会科学分野の科目を追加することとしました。また、初年次教育の一環として昨年度に開設した「スタートアップゼミナール」においては、基本的なアカデミックスキルを学習する以外に、本年度から外部講師を招いて情報モラルやハラスメント等人権にかかわるトラブルへの対応等に係る内容の講義を取り入れました。さらには、学修成果の可視化を目的として「ルーブリック」評価の導入を進めているところです。

学則の変更

子ども学科の授業科目について、文部科学省教育職員免許法等の改正及び厚生労働省保育士養成課程の見直しに対応するため、科目名及び内容、形態、単位数、開講時期等を変更し、平成31年度入学生から実施することとします。

ディプロマ・ポリシーの見直し

平成28年3月に改正された「学校教育法施行規則」が平成29年4月から施行され、各大学及び短期大学は、「ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）」「カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）」「アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）」の3つの方針を策定することが義務付けられました。それに伴い、中央教育審議会大学分科会大学教育部会から、これらを策定し、運用するためのガイドラインも発表されました。

本学では、義務化される以前から、3つのポリシーを一体的に策定し、それに則った教育を実施してきました。とりわけ、学生が「ディプロマ・ポリシー」に定めた学修成果を獲得できたかどうかについて自己点検・評価を行い、教育の改革・改善に取り組むという内部質保証のシステムの確立が求められていることから、現在、「ディプロマ・ポリシー」の見直しや、更には学修成果の更なる可視化に向けた取組を進めているところです。

2 自己点検・自己評価の取組

外部評価委員会の設置

自己点検・自己評価結果について、学外者による検証を行うため、本年度から新たに7名の学部評価委員（任期3年）を委嘱し、7月3日（月）、本学において第1回外部評価委員会を開催しました。

（外部評価委員：敬称略）

東福寺一郎（委員長：三重短期大学学長）、鈴木紀生（真宗高田派本山専修寺教学総務）、谷口光暁（県立久居高等学校長）、伊藤公昭（株式会社三重銀総研専務取締役）、佐藤弘道（学校法人専修学園高田幼稚園園長）、栗真恵光（社会福祉法人高田福祉事業協会高田保育園園長）、高木章吉（社会福祉法人聖ヨゼフ会松阪理事長・県老人福祉施設協会会長）

3 主体性・協調性を育む短大生活支援

(1) 新入生宿泊研修

2年間の短大生活を有意義に過ごすため、新入生オリエンテーション行事の締めくくりとして、宿泊研修を実施しました。高短生として自立心、協調性を養うとともに、学生・教員相互の理解と親睦を深める研修目的を参加者全員が自覚し、取り組むことができました。

日 時 4月21日(金)～4月22日(土) 1泊2日

会 場 COCOPA RESORT CLUB 白山ヴィレッジゴルフコース(津市白山町川口6262)

参加者 1年生及び教員全員、関係職員

研修内容 学長講話、子ども学科「すてきな保育者になるために」「つくって、あそんで、みせて2016」、キャリア育成学科「グループワーク〈先生にインタビュー〉」、レクリエーション、パターゴルフ等



(2) 学生自治会主催イベント

本学伝統の自治会活動では、2年生の執行部役員に加え、1年生から学生自治会サポートメンバーを募り、各学生が自らの役割を考えて行動し、課題を解決していく「異学年共同コミュニティ」の形成を目指しています。自治会活動を教職員が支え、年間を通して種々の行事を企画実施しています。

① 学生生活相談会

日 時 4月5日(水)～4月11日(火)

場 所 2号館1Fロビー前

内 容 新年度開始直後の1週間に自治会執行部役員によるブースを設け、科目履修、部活動、アルバイト、就活等について新入生の相談に応じました。

② TJC祭(スポーツ大会)

日 時 5月13日(土) 12:00～16:00

場 所 本学体育館

内 容 新入生歓迎および学生の親睦を深めることを目的に開催しました。スポーツを行なうには最適な時期で約130名の学生が集まり、自治会役員や教職員とともに競技に参加しました。



③ ランチタイムコンサート（平成29年度 第1回）

日 時 7月21日（金） 昼休み

場 所 本学カフェテリア内特設ステージ

内 容 吹奏楽部による演奏を行いました。

④ 第52回高短祭

日 時 10月21日（土）・22日（日） 10:00～15:00

内 容 1日目：台風の影響による天候不順のため、恒例のビンゴ大会（2日目）を繰り上げて実施するなど、大幅にプログラム変更をして実施しました。

来場者数約700～800名。

2日目：自治会役員等の判断で、台風上陸のため急遽中止を決定しました。



⑤ パフォーマンス大会・抽選会

日 時 11月27日（月） 16:20～17:30

場 所 講 堂

参加者 約80名

内 容 学生から自発的に出された要望を取り入れ、あらためて台風のために高短祭で実施できなかったプログラムの中から抽出して開催しました。



⑥ 新春運動会・ゲーム大会

日 時 平成30年1月13日（土） 10:00～15:30

場 所 本学体育館

参加者 約120名

内 容 教職員も加わり、軽い運動を取り入れたレクレーションなど、ゲームも交えて和やかに実施しました。



(3) 学長と学生自治会執行役員との懇談会

日 時 7月13日(木) 16:30～

場 所 第4会議室

出席者 栗原学長、執行委員11名、教職員8名

内 容 学生からの要望等(ハード・ソフト)を聴き取り、今後の改善策について意見交換しました。

ア. 学生自治会活動について

イ. 高短祭準備状況

ウ. マナー低下について

(4) 生活講座

日 時 11月20日(月) 14:40～16:10

場 所 本学1号館4階 講堂

参加者 113名

内 容 テーマ① 年金セミナー「年金制度の必要性について」

講 師 津年金事務所 地域年金推進員

テーマ② 保健担当者から「人生設計と性」

講 師 本学 富永保健室担当

(5) 強化指定クラブ部の主な活動記録

① 女子サッカー部

2017年度三重県女子サッカーリーグ(6月～10月) 2部

優勝(1部昇格)

② 女子バレーボール部:

第43回西日本バレーボール大学女子選手権大会(6月～7月)

ベスト32

第144回東海大学男女バレーボールリーグ戦秋季大会(9月～10月)

1部3位

第124回三重県学生男女バレーボールリーグ戦秋季大会(11月)

1部優勝(3連覇)

第64回秩父宮妃賜杯全日本バレーボール大学女子選手権大会(11月)

決勝T出場

4 キャリア教育・キャリア支援の充実

(1) キャリア教育の推進

各学科・コースの特色に応じて、教養科目・専門科目の各授業と進路ガイダンス、プレ就職講座、就職講座を関連づけ、キャリア教育を推進しました。

29年度入学生 (1年生)	子ども学科	進路ガイダンス 1回実施	就職講座 4回実施
	キャリア育成学科		
	オフィスワークコース	プレ就職講座 2回実施	就職講座 4回実施
	介護福祉コース	プレ就職講座 1回実施	就職講座 4回実施
28年度入学生 (2年生)	子ども学科	就職講座 7回実施	
	キャリア育成学科		
	オフィスワークコース	就職講座 5回実施	
	介護福祉コース	就職講座 4回実施	

(2) 公務員試験対策

① 教養試験対策講座 (受講者数)

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
1年生	87人	94人	85人	79人	90人
2年生	26人	37人	47人	50人(49人受験)	50人(35人受験)

※29年度入学生(現1年生)は、9月5日から12月12日まで15回実施

※28年度入学生(現2年生)は、3月8日から8月23日まで18回実施

- ② 保育専門対策講座(4月15日～8月23日:10回実施、子ども学科2年生50人参加)
- ③ 数学対策講座(講師:高田高校教員、対象:前期2年生、後期1年生、各31回ずつ実施)
- ④ 公務員試験合格者数(平成30年3月31日現在)

現役生19名(市町保育士・幼稚園教諭:延べ人数20名)、c.f.卒業生24名(把握分)

(3) 学生への就職支援

キャリア支援センターに配置されたキャリアカウンセラー1名、キャリアサポーター5名(内、2名は非常勤講師)、キャリアセンター長及び庶務担当各1名の総勢8名の職員が、学生の進路相談をはじめ就職活動全般についてきめ細かく支援しています。



(4) 卒業生への支援と早期離職の防止対策

離職したり仕事上の悩みなどで相談に来る卒業生に対して卒業後も継続して支援を行っています。また、卒業前には2年生全員に就職直前講座(2月19日)を、新年度には卒業生就職先訪問を行うなど、早期離職防止対策を実施しています。

(5) 「キャリアカルテ」の活用等による協働型キャリア支援の推進

就職支援システム「キャリアカルテ」を核とした学内ネットワーク「高短キャンパスネット」を活用するなどして、学生、教員及び職員間での情報共有及び意思疎通等を図っています。

5 学生募集と高大交流事業

(1) 高大教育交流事業

今年度の交流事業の実施回数は下記のとおりです（協定校13校および高田高等学校での実績）。

- ① 出張ガイダンス（協定校へ出向いて学校ガイダンスを行う） 35回（14校）
- ② 出前（模擬）授業（協定校へ出向いて出前（模擬）授業を行なう） 15回（9校・16講座）
- ③ 特別授業・授業見学・施設見学など（本学の授業に出席、本学の施設・設備見学）
6回（4校・10講座、
授業見学3回）



(2) 高大教育交流連絡協議会

今年度は以下のとおり協議会を実施しました。

第1回 6月29日（木）14：40～16：10

実施内容：平成30年度入試、本学各学科の特徴について、教育交流事業報告等

第2回 11月9日（木）15：00～17：00

実施内容：① 30年度AO・推薦入試結果、
② 高大連携によるシームレスな学生指導についてⅠ 等

第3回 3月2日（金）15：00～17：00

実施内容：① 30年度入試結果について
② 高大連携によるシームレスな学生指導についてⅡ 等



(3) 高田高等学校との意見交換会

5月16日(火)に、同学苑の高田高等学校の3年生担任および進路指導関係教員17名に
来学いただき、会食ならびに意見交換、質疑応答を行いました。



(4) オープンキャンパス実施結果

① 日時

第1回 平成29年6月10日(土) 13:00~16:45

第2回 平成29年7月9日(日) 13:00~16:45

② 参加者数

		第1回 (6/10)	第2回 (7/9)	合計
子ども学科		158名	173名	331名
キャリア育成学科	オフィスワークコース	38名	76名	114名
	介護福祉コース	7名	19名 留学生7名	26名
計		203名	268名	471名

③ 実施スケジュール

13:00~13:25 全体説明会

13:30~16:45 各学科・コース説明・体験・相談



(5) 高短フェア実施結果

日時 平成30年3月11日(日) 13:00~15:30

参加人数 95名



6 外国人留学生支援について

(1) 留学生ミーティング及び入学前ガイダンス等の実施

- ① 留学生ミーティング (計4回) : 第1回 4月20日 (木)、 第2回 5月29日 (月)、
第3回 7月24日 (月)、 第4回 1月30日 (火)
- ② 新入留学生入学前ガイダンス 3月 6日 (火)
- ③ 新入留学生対象ミーティング 3月28日 (水)



(2) 本学卒業留学生と本学留学生の懇談会

今回で3回目の開催となり、卒業留学生から就職や進学についてのアドバイスをもらいました。

開催日時 8月4日 (金) 11:30~13:00

会場 本学 カフェテリア

参加者 卒業留学生 6名

本学留学生 15名

教職員 10名



(3) 授業内での日本語支援について

① S A (スチューデント・アシスタント) 制度

授業の空いている日本人学生が、留学生をサポートするため留学生の授業に参加します。

前期は「ビジネス情報演習Ⅰ」と「文書情報演習Ⅰ」の授業に3名の日本人学生がS Aとして参加しました。

② 日本語T Aの配置

介護福祉コース1年生の授業に日本語T Aを配置しました。介護や医療の専門用語等の説明が留学生に非常に好評でした。

後期は日本語T Aの都合によりT A配置科目が減少しましたが、難解な医療系科目を中心に授業の日本語補助を行なってもらいました。

地域への社会貢献事業

中勢森林組合との連携

高田短期大学は中勢森林組合と連携協定を締結し、6月14日（水）に調印式を行いました。「津地域の木をもっと使って夢を育てよう」プロジェクトとして、津地域の間伐材の有効利用に向け、幼児保育施設並びに福祉施設現場での活用に向けて木材を利用した新商品開発と販路拡大を目的として、学生よりデザインのアイデアを募集しました。

その結果、学生より162点の応募があり、審査の結果、5点のアイデアが採択されました。そのアイデアを元に木製遊具・玩具が製作され、平成30年3月14日（水）に作品を披露する成果報告会が開催されました。






松阪市との包括連携協定

高田短期大学は昨年度の津市との協定に引き続き、新たに松阪市と連携協力協定を締結し、11月15日（水）に松阪市役所で調印式を行いました。本協定は、松阪市の施策の推進や地域の課題解決に関する事、教育及び福祉の向上に関する事、子育て支援に関する事、人材育成に関する事等を目的としています。

本年度事業としては、松阪市内の公立中学校にて、職業選択の一助として、子ども学科教員による保育職の仕事の内容や必要とされる資質などを話す出前講座等を実施しました。



高田短期大学公開講座

「デジタル画像加工入門」	
開催日	8月5日(土)
場所	PC教室I
参加者	30名
受講料	無料
講師	キャリア育成学科 講師 川喜田多佳子
内容	パソコン上で画像編集ソフト「ウェブアートデザイナー」を使い、画像の切り取りや加工の仕方、より良く見せるためのコツなどを学んでいただきました。
	
「レクリエーションを介した人間関係の構築」	
開催日	9月2日(土)
場所	介護実習室
参加者	12名
受講料	無料
講師	キャリア育成学科 助教 徳山貴英
内容	「あいさつじゃんけん」や「心の握手」など参加者同士でコミュニケーションをとりながらレクリエーションを行い、レクリエーションの技術や発展的な活用法を学んでいただきました。
	
「日本語は曖昧な言語か？」	
開催日	9月23日(土)
場所	図書館グループワークルーム
参加者	9名
受講料	無料
講師	キャリア育成学科 准教授 野呂健一
内容	日本語が曖昧だと言われる理由について、日本語ならではの表現のルール、文法的特徴、コミュニケーションスタイル等の観点から解説がありました。そして、曖昧な文を明確なものにする方法として、「大きめの箱」は「A3用紙が入る大きさの箱」のように言い換える、語順を工夫して修飾関係をはっきりさせる、「～の」の多用を避ける等の方法を学んでいただきました。
	

教員免許状更新講習

昨年度に続き文部科学省の認可を受け、主に幼稚園教諭のための免許状更新講習を開催しました。また、平成30年度教員免許状更新講習該当者が平成29年度より1.7倍となるため、定員を40人から80人へ倍増し受入れ体制の見直しを行い、県下の他大学との連携をさらに図ります。

Mie 保育士人材バンク「takada-jc」

県内の保育士養成校の卒業生を中心に保育士資格等を有していながら、現在保育士として就業していない潜在保育士に対して、研修を提供しスキルアップを図り、子どもの視点に立った保育人材を育成し、再就職を支援する人材バンクです。また、保育士資格を有し、現在働いている方へ保育指針を踏まえたスキルアップの場を提供しています。今年度も教員免許状更新講習会等に合わせ、登録された保育士等に次の研修会を実施しました。



○ 参加費は無料 定員は各講座とも30名程度 ○

日 時	講 座 名	講 師	参加者
11月 5日(日)	講座① 子どもの食生活と食育	教授 鷲見 裕子	1名
11月19日(日)	講座③ 子どもの感性と表現(音楽)	准教授 山本 敦子	6名

みえアカデミックセミナー2017

三重県内にある全ての大学・短期大学・高等専門学校が有する学びと県民をつなぐ一大連携事業で、各校の特色を活かしたバラエティ豊かな公開セミナーに参画しています。

日 時	8月23日(水) 13:30~16:00
会 場	三重県総合文化会館1F レセプションルーム
テーマ	①「多様化する家族、変容する地域社会 ～マイノリティに向けられる『まなざし』～」 ②「他者にひらかれたからづくり ～運動と身体と身体機能の視点から～」

8月23日(水)三重県総合文化会館レセプションルームにおいて「みえアカデミックセミナー2017」の本学講座を開催しました。2部構成の講座を行い、当日77名の参加がありました。



高田短期大学 FD・SD研修会

自己点検・評価委員会主催の本学のFD・SD研修は以下のとおり開催しました。

第1部については、三重大学・三重短期大学および「私学連携協議会みえ」加盟校(四日市大学、四日市看護医療大学、ユマニテク短期大学、鈴鹿大学、鈴鹿大学短期大学部、鈴鹿医療科学大学、皇學館大学)よりあわせて22名の方をお迎えし、本学の教職員40名とともに研修に参加しました。

開催日時 平成30年2月23日(金) 13:00~

開催場所 大講義室

第1部 13:00~15:00

シンポジウム 「県内学生相談室の現状と課題」

講師	三重大学 学生総合支援センター講師 学生なんでも相談室長	鈴木 英一郎 先生
	三重県立看護大学 カウンセラー	荒木 久恵 先生
	鈴鹿医療科学大学 准教授 学生相談室長	綾野 真理 先生
	皇學館大学 学生相談室カウンセラー	岡野 志津代 先生
	高田短期大学 特任准教授	橋本 景子 先生
コーディネーター	高田短期大学 子ども学科長	千草 篤麿 先生

第2部 15:15～16:00 (学内のみ)

「本学カウンセリング室より」

講師	高田短期大学 カウンセラー	瀬島 美保子 先生
----	---------------	-----------



「私立短期大学東海・北陸地区図書館協議会」総大会（総会・研修会・情報交換会）

9月8日（金）、ホテルグリーンパーク津において、私立短期大学東海・北陸地区図書館協議会の総大会（総会・研修会・情報交換会）が開催されました。

今年度は本学図書館が開催地担当となり準備を進めてきました。研修会のテーマは、「図書館の授業支援」としました。

研修会では、「図書館の授業支援をどう進めるか：短期大学図書館の意義とその役割」という演題で、法政大学兼任講師、元横浜女子短期大学図書館司書の奥泉和久氏に講演をいただきました。講演を聴講した後は、各館で行っている授業支援と学習支援の取り組みについて意見交換を行いました。

本学図書館では、近年、授業内での司書によるガイダンスやラーニング・コモンズの設置等、授業支援の取り組みや学習支援のための環境整備を進めてきました。短期大学図書館の意義と役割を見つめ直し、今後のより効果的な授業支援、学習支援について考える良い機会になりました。



総会の様子



奥泉氏の講演



意見交換の様子

子ども学科

津市家庭教育支援セミナー

就学前の子どもを持つ保護者を中心に、家庭教育を支援するための講座を津市との包括的連携協定の下で共催して開催しました。会場は津市中央公民館で、6月～8月まで毎週月曜日（祝日は火曜日）に子ども学科の教員が講師として10回の講座を実施しました。

日 時	テ ー マ	講 師
6月 5日 (月)	「子どもの育ちの“受け止め”と“支え”①」	教授 山口 昌澄
6月12日 (月)	「子どもの育ちの“受け止め”と“支え”②」	教授 山口 昌澄
6月19日 (月)	「子どもの育ちと音楽①ー耳を育てるー」	准教授 山本 敦子
6月26日 (月)	「子どもの育ちと音楽②ー声遊び、音遊びー」	准教授 山本 敦子
7月 3日 (月)	「社会福祉と貧困」	助教 武藤 敦士
7月10日 (月)	「児童虐待とDV (Domestic Violence)」	助教 武藤 敦士
7月18日 (火)	「子どもの発達と障害①」	教授 千草 篤麿
7月24日 (月)	「子どもの発達と障害②」	教授 千草 篤麿
7月31日 (月)	「人とのつながり・家族との関わり方について①」	助教 戸川 俊
8月 7日 (月)	「人とのつながり・家族との関わり方について②」	助教 戸川 俊

FD学習会

日時：9月19日 (火) 14:00～16:00 於) 高田短期大学第4会議室
テーマ：「新カリキュラムと再課程認定について」
講 師：福西朋子教授、寶來敬章講師、加藤光博教務課長
内 容：平成30年度から保育所保育指針・幼稚園教育要領が改訂施行される事により、平成31年度より保育士養成課程、教職課程のカリキュラムが改訂されることとなりました。このカリキュラムの考え方について、文科省の説明会参加者を中心に共通認識となるよう学習会を実施し、教職課程の再課程認定の事務的手続きについても確認しました。

キャリア育成学科 (両コース共通)

初年次教育「スタートアップゼミナール」

昨年度初年次教育科目として開講した「スタートアップゼミナール」を、今年度からキャリア育成学科両コース統一のシラバスで実施しました。その活動の一環として、今年度も各学生がおすすめの一冊を他の学生に紹介するブックレビューの発表をゼミ内で行い、発表に併せて作成した紹介チラシを1号館玄関前に展示しました。その後、各ゼミから優秀作品を選出し、書籍とともに図書館内に展示しました。また、今年度新たに、学生にとって身近な問題である情報モラルとデートDVについて、外部講師による特別講義を実施しました。



平成29年度学科FD研修会

日時	2月21日(水) 13時～14時30分	場所	図書館グループワークエリア
テーマ	「留学生支援」		
講師	三重日本語学校 高田 裕介先生		
内容	<p>キャリア育成学科は、本年度介護福祉コースに多くの留学生を抱えたこと、オフィスワークコースでは留学生が授業を欠席がちなことなどから、留学生指導が大変困難な状況にある。本年度三重日本語学校から高田先生をはじめとする三重日本語学校の先生方に、留学生の授業支援をしていただいている。今回は、日本語学校でのご経験や1年間の留学生の授業支援の取り組みから、1) 留学生の学習、生活、進路に関する支援や配慮すべき事項や課題、2) 高田短期大学の留学生の状況や指導されて感じたこと、3) 来年度の留学生支援の在り方について、講演を45分していただいた。その後45分間は、教員からの質問に丁寧に答えていただいた。現在取り組んでいる留学生の授業支援の目的が不明確になっているのではないかとこの指摘に対し、本学が来年度の授業支援の目的を明確にすることが宿題となった。</p>		

オフィスワークコース

スキルアワード

学生の資格取得を応援するため、資格取得に努力し、良い成績をあげた学生を各学年で学期ごとに表彰しています。資格レベルによって「★」の数を設定し、合格した資格に応じた「★」の数を集計し、「★」の数をたくさん取得した学生に優秀賞を、特に難しい検定に合格した学生に特別賞を与えています。また、オフィスワーカーとして必要な能力を身につけたことを証明するコース認定制度を設け、指定した複数種類の検定に合格した学生を、「オフィスマスター」として認定しています。また、オフィスマスターをベースに特定分野の難しい資格を取得した学生を「オフィススペシャリスト【各分野】」として特定分野に強いオフィスワーカーとして認定しています。



優秀賞受賞学生

平成28年度後期表彰 (現2年生)	4月10日(月)、平成28年度後期の資格取得状況をもとに2年生前期スキルアワード表彰式を行いました。オフィスマスター29名、優秀賞15名、オフィススペシャリスト(事務)2名を表彰しました。
平成29年度前期表彰 (現2年生)	10月2日(月)、平成29年度前期の資格取得状況をもとに2年生後期スキルアワード表彰式を行います。特別賞(サービス接遇準1級)13名、オフィススペシャリスト(接遇)5名を表彰しました。
平成29年度前期表彰 (現1年生)	10月3日(火)、平成29年度前期の資格取得状況をもとに1年生後期スキルアワード表彰式を行い、オフィスマスター11名、優秀賞16名、特別賞(日商簿記2級)2名を表彰しました。

社会体験実習の実施

今年も夏期休業中を利用して約10日間にわたる「社会体験実習」に多くの学生が参加しました。本学オフィスワークコース独自の社会体験実習は19年の歴史を積み重ねており、インターンシップとは異なる就業体験プログラムを構築しています。

今年度は1年生59名が23法人27の実習先に



報告会の様子

分かれ社会体験実習を行い、9月27日（水）には、実習を終えた履修学生全員による社会体験実習報告会が本学で行われました。

エントリーシートの書き方と面接のマナー講座

本年度も、オフィスワークコースの魅力と具体的な学びを地域の方に伝え、入学定員確保につなげることを目的に活動をしています。その一つとして、7月26日（水）、短大に進学した後、三重県内の企業で働きたいと考えている高校3年生を対象とした、「自己PRシートの書き方」と「面接のポイント」の特別講座を実施し、69名の参加者がありました。オフィスワークコースの野呂准教授が自分らしさを読み手に伝える自己PRシートの書き方を、岡田講師が面接官に好印象を与える面接のポイントを指導しました。



「面接のポイント」講座

租税教室

公益社団法人鈴鹿法人会青年部、税務署とオフィスワークコースの学生が協働で行う租税教室プロジェクトに、オフィスワークコース1年生の10名が参加しました。

9月25日(月)から1月18日(木)まで、月1回程度の頻度で勉強会を実施し、税務署や鈴鹿法人会青年部の指導のもと、租税に関する知識を蓄えるとともに、租税教室の進め方等について学んできました。その学修の成果を披露する機会として、1月16日（火）、30日（火）、2月5日（月）に鈴鹿市立桜島小学校、郡山小学校、神戸小学校、白子小学校に出向き、学生が講師となって6年生を対象に、租税に関心を持ってもらうことを目的として租税教室を実施しました。



租税勉強会の様子

平成29年度コースFD研修会

日時	1月30日（火）14時40分～16時10分	場所	図書館グループワークエリア
テーマ	「学習支援システムmanabaの概要」		
講師	株式会社朝日ネット 五加みゆき氏		
内容	平成30年度から本学において導入することとなっている学習支援システムmanabaについて、システムの概要、サービス内容、導入事例等について説明を受けた。		

介護福祉コース

FD学習会

日時	9月13日（水）15：00～18：00	於	高田短期大学 介護福祉コース準備室
テーマ	「『ゼミナールI』テキストの検討」		
講師	千草篤磨 教授		
内容	今年度より、従来から国会で議論されてきた問題が漸く本格的に実施されることとなりました。介護福祉士資格の取得に当たって国家試験が導入される事と、留学生在が介護福祉士資格を取得することにより在留資格が認められる事です。このような制度改正が一段落したことで、1年生の「ゼミナールI」で使用するテキストをコース教員で執筆することとし、内容について最終的な検討を行いました。		

仏教教育研究センター

研究会の開催

研究テーマ：「真慧上人著『顕正流義鈔』の研究」

高田派中興の祖である真慧上人のご遠忌を記念して、上人が著された『顕正流義鈔』の研究書を発刊することを目的に毎月1回研究会を開催しています。これまでに原文と現代語訳との対照を行い、語句説明を頭註、補註形態で行ってきました。そして、昨年度に引き続き、今年度も補註の完成に向けて作業を進めました。

仏教教育研究センター公開講座（高田本山教学部 共催）

地域の方々に仏教に触れる機会をご提供することを目的に、高田本山教学部との共催にて、真宗高田派本山にて開講しました。なお、いずれも受講料は無料です。

第1回	日時	6月16日(金) 13:30～15:00	受講者	30名
	題目	「日頃の御堂の例会のお話から」		
	講師	加藤 正美氏（真宗高田派専照寺住職、内科医師）		
第2回	日時	10月12日(木) 13:30～15:30	受講者	12名
	題目	「最新の親鸞聖人筆跡研究」		
	講師	新 光晴研究員（真宗高田派本山専修寺宝物館主幹）		

仏教基礎講座（高田本山寄附講座）

高田本山からの寄附を基に実施する講座で、仏教や真宗に関する基礎的な内容に加え、真宗高田派の歴史や法宝物に関する知識を学んでいただきました。

日時	8月21日(月)～8月25日(金) 9:00～17:50
対象	寺族及び一般者
受講料	無料（但し、テキスト代は実費負担）
教科 講師	「仏教学」栗原廣海研究員（本学学長） 「仏教史」金信昌樹研究員（本学非常勤講師） 「真宗学」松山智道研究センター長（本学特任講師） 「真宗史」清水谷正尊研究員（本学非常勤講師） 「高田の歴史と法宝物」新光晴研究員 （真宗高田派本山専修寺宝物館主幹）
受講者	22名（教師検定講習受検者6名、一般16名）



基礎講座



公開講座

仏教専門講座（高田本山寄附講座）

仏教基礎講座と同じく高田本山からの寄附を基に実施するもので、仏教や真宗に関するより専門的な知識を年間10回の講座（試験日として11回目あり）で学んでいただきました。講座科目は隔年で内容が変わり、全10科目（隔年で5科目）を開講します。この講座は、文部科学省の履修証明制度に則った「履修証明プログラム」として開講し、全10科目の講座を修了された方には学校教育法第105条に基づいた履修証明書を交付しています。

日 程	4月28日(金)	5月26日(金)	6月30日(金)	7月28日(金)
	9月29日(金)	10月27日(金)	11月24日(金)	12月15日(金)
	1月26日(金)	2月23日(金)	3月2日(金)	
	9時00分～17時50分(50分の昼休憩あり)			
対 象	寺族および一般(真宗高田派の教学を学びたい方)			
受講料	無料(テキストは『真宗高田派聖典』のコピーを配布)	受講者	69名	
教 科 講 師	「仏教学概説」 新 光晴 研究員(真宗高田派本山専修寺宝物館主幹) 「仏教学講読Ⅰ」 安藤章仁 研究員(高田中・高等学校非常勤講師) 「高田の宗風」 藤田正知 研究員(高田中・高等学校教諭) 「真宗学購読Ⅰ」 松山智道 研究員(本学特任講師) 「真宗学購読Ⅲ」 佐波 真 研究員(明通寺住職)			

運営委員会開催の状況

第1回	4月20日(木) 16:30～17:00	○第1回公開講座について ○基礎講座について
第2回	6月15日(木) 16:30～17:00	○基礎講座について
第3回	7月20日(木) 16:30～16:50	○基礎講座について
第4回	8月29日(火) 16:30～16:50	○基礎講座の反省について ○第2回公開講座について
第5回	11月16日(木) 16:30～16:55	○平成30年度センター年間行事予定について ○平成30年度公開講座講師について
第6回	2月14日(水) 16:30～17:00	○平成29年度の講座について ○平成30年度の講座について

育児文化研究センター

関連会議

センター会議

- 1) 前期センター会議 開催日 5月18日(木)
16:30～18:30 参加者18名
(1) 話題提供:三重県児童総合センター「里親制度について」
(2) 平成28年度事業報告および平成29年度事業計画について
(3) グループ研究報告
- 2) 後期センター会議 開催日 12月5日(火)
16:30～18:30 参加者16人
(1) 平成29年度進捗報告と平成30年度に向けて
(2) 話題提供:坂口幸穂研究員「進化するみえこどもの城」
(3) グループ研究報告



拡大運営委員会

- | | | |
|-----|--------------------------|-------------------|
| 第1回 | 5月10日(水) 16:30～18:30 | 内容:平成29年度事業計画について |
| 第2回 | 10月3日(火) 16:30～18:30 | 内容:平成29年度中間報告について |
| 第3回 | 平成30年3月6日(火) 16:30～18:30 | 内容:平成29年度事業報告について |

学内運営委員会

平成29年4月から平成30年3月までに12回学内運営委員会を開催いたしました。

ひろば運営会議

月1回「親子ひろば高短」の振返り、計画確認、課題検討を専任スタッフと運営委員で12回行いました。

開催日：4/24(月)、5/29(月)、6/26(月)、7/27(木)、8/28(月)、
9/25(月)、10/26(木)、11/30(木)、12/21(木)、1/25(木)、
2/22(木)、3/29(木)

地域子育て支援事業

地域開放事業「おやこひろば たかたん」

子育て家庭の支援と子育て支援に関する研究フィールドの「おやこひろば たかたん」は7年目を迎え、津市を中心に子育て親子の皆さんにご利用いただいています。スタッフの見守りの中、親子が、子ども同士が、親同士がゆったりした雰囲気遊び、ふれあい、交流を深める様子があちらこちらで見受けられます。また、今年度は月曜祝日の「海の日」と「体育の日」に家族の方との交流の場にもなればとファミリーデーを企画いたしました。今年度も夏休みに学生が保育ボランティアとして広場に参加し、子育て支援への学びを深める場となりました。また、参加者からは学生との関わりが子どもや親によい刺激になるとの評価もありました。



「おやこひろば たかたん」活動状況と利用者数

開催日時 月曜日・・・0、1歳児 木曜日…2歳児以上 10:00～12:00
場 所 育児文化室（1号館2F） 参加対象 未就園児とその保護者
※平成29年度4月から3月には、月曜日48回、木曜日46回の計94回ひろばを開設しました。総計で166組の親子、子どもと保護者を合わせて延べ2,454名に利用いただきました。



子育て講座

ひろば開催日（４・３月を除く月１回の計１０回）にセンター研究員を講師に予約制の子育て講座を開催しました。子育て講座にはのべ１４９組の参加がありました。



ひろば関係研修会

1) 第１回ひろば関係研修会 「乳幼児の救急蘇生について」

津北消防署から乳幼児の救急蘇生法と誤飲対処法について説明を受けた後、グループで救急蘇生法の実施体験を行いました。

また、本学設置のＡＥＤについて使用説明がありました。

日 時 ８月２４日（木） １３：３０～１４：３０

場 所 １号館育児文化室

参加者 本学教職員・ひろばスタッフ 計１１名



2) 第２回ひろば関係者研修会 「おやこひろば たかたんの取り組みについて」

ひろばスタッフ２名より研修報告を受け、今後のたかたんの取り組みについて質疑応答と意見交換を参加者間で行った。

日 時 平成３０年１月１８日（木） １２：１０～１３：３０

場 所 １号館第４会議室

参加者 本学教職員・ひろばスタッフ・地域ボランティア 計１３名

「おやこひろば たかたん」ＨＰ

「ひろば開催日」「活動案内」「活動紹介」等、現在の活動や今後のご案内をしています。

「活動紹介」はブログ形式で写真とともに、毎ひろば開催日にアップをしています。

また、プリントアウトして育児文化室前にも掲示しております。

子育て相談

地域への子育て支援の事業として、育児に関する心配や不安を相談できる個別対応の子育て相談を予約制で行っている。チラシ配布により広報に努めた。その結果、情報誌「きらきら」や他のひろばでの掲示チラシをみての申込みがあった。相談件数は４月～３月までに発達相談９件、子育て５件であった。また、個別相談には至らないが、ひろば参加保護者よりひろば内で相談を受けることもありました。

主催講演会

昨年度は親子が対象のイベントであったことから、今年度は保育者を対象とした下記の講演会を企画・実施した。教育要領や保育指針が改定となる時期であり、テーマへの興味や講師への関心が高いなどの理由から参加者も多く、内容も99%満足という好評価を得ました。

- テーマ 「要領・指針はなぜ、どう改定されたのか？」
講師 汐見 稔幸（白梅学園大学学長・東京大学名誉教授）
日時 平成30年1月28日（日）13:00～15:00
場所 高田短期大学 講堂
参加対象者 保育関係者・保育に関心のある保護者、学生
参加人数 教職員20名、子ども学科学生62名、
一般参加者276名 計358名



研究会

センター研究員の活動の場として定例研究会とグループ研究会を開催しています。

定例研究会（年3回）

これまで発表の機会が少ない研究員に報告をお願いしました。それにより発表テーマの視点が多岐に渡り、様々な分野での発表とすることができました。また、発表本数や参加人数によって、グループ討議をする、テーマを絞っての全体討論とするなど流動的な設定にしました。さらに会場を図書館のグループワークエリアとしたことにより、内容の深まりや活発な意見交流となり有意義な研究会とできました。なお、研究会の報告概要は「高田短期大学育児文化研究第13号」に掲載しました。

第1回 第47回定例研究会 7月11日（火）16:30～18:30 参加者20名

- (1) 研究報告 長倉研究員・青木研究員 「津市の子育て支援センターのニーズと課題」
- (2) グループワーク 「子育て支援の場とは」
- (3) グループ研究会について



第2回 第48回定例研究会 11月1日（水）16:30～18:30 参加者10名

- (1) 研究報告 小菅千恵子研究員 「早朝時保育における保育者の役割を考える」
- (2) 全体討論 「早朝時の保育について」



第3回 第49回定例研究会 2月14日(水) 16:30~18:30 参加者19名

- (1) 研究報告 ①稲田直子研究員 「保育内容『表現』における実践報告」
②水野潤子研究員 「専門性を生かす支援者 保育者として『保育・保護者支援』」

(2) 全体討議



グループ研究会

各グループ研究会は、主題に沿って子育て支援や保育・幼児教育、育児の現状を捉えながら、幅広い専門領域の研究員からの情報提供も盛り込み、どの研究会も活発な研究活動が行われました。「高田短期大学育児文化研究第13号」には、グループ研究での助言、討論を踏まえた3つの研究成果が報告されました。また、グループ研究会の研究概要も掲載しました。

- (1) グループ研究①「子育て支援の現状と課題」 (8名)
開催日: 7/4(火)・9/27(水)・11/14(火)・12/19(火)・2/8(木)・3/8(木)
- (2) グループ研究②「子育て支援のひろばについて」 (6名)
開催日: 6/29(木)・8/24(木)・10/19(木)・12/21(木)・2/5(月)・3/5(月)
- (3) グループ研究③「子どもの基本的な生活習慣と育児」 (6名)
開催日: 6/5(月)・6/29(木)・9/12(火)・11/27(月)・12/18(月)・3/12(月)

学生支援事業「子育て応援隊活動」

保育・子育てに関わる地域でのボランティア活動は、子ども学科生にとって貴重な体験と学びの機会となり、積極的な参加を促したい考えです。これまで同様に育児文化研究センター教職員が、参加者全員を対象に事前・事後指導を実施し、個々の学生の確かな学びとなるような支援に取り組んだ。特に今年度は前年度の振り返りを生かした事前指導の内容と改善した。今年度はボランティアの依頼件数も増え26件、224人の学生が活動した。



広報物及び研究成果の発行

センターたより「いくぶん」第22号

「おやこひろば たかたん」をはじめ育児文化研究センターの事業報告や新入会研究員の紹介を掲載し10月に発行しました。

育児文化研究センター紀要「高田短期大学育児文化研究」第13号（平成30年3月発行）

研究論文5本、調査報告1本、実践報告5本、資料紹介1本と定例研究会での研究報告要旨、3つのグループ研究会の活動報告等を掲載し3月15日に発行しました。

地域連携事業

津市つながりひろば運営委員会

- 第1階 4月27日（木） 18：00～21：00 内容：今年度の事業詳細確認
- 第2回 8月 3日（木） 18：00～21：00 内容：実施事業の企画について
- 第3回 10月12日（木） 18：00～21：00 内容：つながり子育て支援イベント
- 第4回 3月 1日（木） 18：00～21：00 内容：事業振返りと次年度計画について

みえ次世代育成応援ネットワーク

- 1) 第1回運営委員会 4月26日（水） 15：00～17：00
内容：会員総会、今年度取り組み事業の概要
 - 第2回運営委員会 7月18日（火） 15：00～17：00
内容：ネットワーク事業・わくわくフェスタ
 - 第3回運営委員会 11月 2日（木） 15：00～17：00
内容：わくわくフェスタ、ネットワーク活性化に向けた取り組み
 - 第4回運営委員会 2月 2日（金） 15：00～17：00
内容：事業振返りと次年度運営体制
 - 第5回運営委員会 3月23日（金） 13：00～16：00
内容：来年度事業と運営体制
- 2) みえ次世代育成応援ネットワーク会員総会 5月31日（水） 13：30～16：30
アスト津 記念講演、総会、会員交流会
- 3) 子育て応援！わくわくフェスタ 11月23日（木） 10：00～16：00
県立石薬師高等学校体育館（参加：学生38名、教員2名）
子ども学科学生（子育て応援隊）企画による遊び・体験ブースに参画しました。
- 4) 「みえの子ども応援プロジェクト」第9回家族の絆一行詩コンクール参加
主催事業である大切な人への「ありがとう」という気持ちをテーマとした一行詩コンクールに学生の応募を呼びかけ、多くの詩を応募した。今年度は「地域・職場の絆 個人部門」で子ども学科2年生の作品が優秀賞を受賞しました。

みえこどもの城連携協定による事業

- 1) 第1回「たかたん あそびひろば」 4月16日（日） 13：00～15：00
「ドオン！！～ふうせん太鼓を作ろう&みんなでたたこう～」
参加： 山本2年ゼミ16名 教員1名



2) 第2回「たかたん あそびひろば」 12月23日(土) 11:00~15:00
 学生主体による子ども向けイベントの企画・運営 (参加: 学生110名 教員5名)
 福西ゼミ、イムゼミ、青木ゼミ、長倉ゼミの6チームと縁起人、ブルーアートサークル



2) 第3回「たかたん あそびひろば」 平成30年1月21日(日) 13:00~15:00
 「親子で作ろう! ダンボールカホン」
 (参加: 学生山本1年ゼミ15名、教員1名、特別講師1名)



津市委託事業

津市ひろば関係者交流会事業(つながりひろば)

- 1) 第1回 6月15日(木) 18:30~20:30
 北部市民センター 参加者33名
 「津ながろう 知らせよう子育て支援」イベントに向けて
- 2) 第2回 8月24日(木) 18:30~20:30
 北部市民センター 参加者26名
 「津ながろう 知らせよう子育て支援」イベントにむけて
- 3) 第3回 11月23日(木・祝) 10:00~15:00 北部市民センター2F
 (参加: 支援者43名(育文関係者5名) 学生20名 来場者281名)
 「津ながろう 知らせよう子育て支援 -津市にここにフェア-」
 津市の多様な子育て支援を周知し、子育て親子、支援者、市民が交流できるイベントの開催





4) 第4回 平成30年2月15日(木) 18:30~20:30 高田短期大学
 「活動実践交流会と次年度に向けてのワークショップ」 (参加者31名)



津市子育て支援者事業 (親支援の援助技術)

1) 第1回 10月26日(木) 18:30~20:30
 高田短期大学 (参加者28名)

テーマ: 「津市の子育て世代包括支援を考える」

講師: 津市健康づくり課、子育て推進課

2) 第2回 平成30年1月18日(木) 18:30~20:30
 高田短期大学 (参加者37名)

テーマ: 「音楽療法の体験を通して人と人とのつながりを感じよう」

講師: 米倉恵里 (三重県いなば園)



津市親支援事業 (子どもとの愛着形成、お母さんのリラクゼーション)

1) 第1・2回 7月23日(日) 10:00~15:00
 高田短期大学 参加家族18組・37名

赤ちゃんコース 「ベビーマッサージ」 講師: 助産師・保育士 (ヤナセクリニック)

幼児コース 「手づくり太鼓製作と音あそび」 講師: 山本敦子 (高田短期大学)

2) ママサロン 7月23日(日) 10:00~15:00 高田短期大学 (参加者9名)



ホッとひろば事業

乳幼児を子育て中の親を対象として、ほんのひととき子どもから離れてホッとできる時間に、子育て中の親同志が交流できる場、子育てママの「ホッとひろば」を提供します。

講師：橋本景子（高田短期大学）

1) 第1回 8月29日(火) 10:00~12:00 高田短期大学 (参加者8名 託児9名)

2) 第2回 11月25日(土) 10:00~12:00 高田短期大学 (参加者8名 託児9名)

3) 第3回 平成30年2月21日(水)

10:00~12:00 一志保健センター (参加者9名 託児12名)



その他

センターリーフレットの改訂版作成

平成30年度に向けて改訂版を作成しました。

子育て情報発信

「情報誌きらきら」（隔月発行：年6回）の育文センター担当頁「子育てライフ応援隊！一緒に子育てはじめましょ」へ、毎回ひろば職員と研究員がそれぞれ担当して子育て情報を掲載しました。

キャリア研究センター

関連会議

キャリア研究センター会議

第1回 5月2日(火) 18:00~18:45

平成28年度の活動報告、そして、平成29年度にセンター構成員に新たに応募し本学学長の承認を受けた構成員の紹介、平成29年度の事業計画について運営委員より説明し、承認いただきました。

第2回 12月15日(金) 17:30~18:30

平成29年度の11月までの事業実施報告を行うとともに、平成30年度の事業計画案につき協議をいただき、了解を得ました。

運営委員会

	日 時	
第1回	4月4日(火)	9:00~9:50
第2回	5月2日(火)	16:40~17:40
第3回	6月6日(火)	16:35~17:50
第4回	7月4日(火)	16:30~17:45
第5回	10月3日(火)	13:00~14:30
第6回	11月14日(火)	13:00~14:00
第7回	12月12日(火)	13:00~14:20
第8回	1月16日(火)	13:00~14:30
第9回	3月1日(木)	16:30~18:00

研究会

【第1回】

5月2日(火)のセンター会議に先立ち、公益法人日本網膜色素変性症協会会員(前同協合理事)宮本忠三重大学名誉教授から「視覚障害者の就職支援について」講義をいただきました。障害者差別解消法の「不当な取り扱い」と「合理的配慮」について、具体的事例など挙げてお話しいただくなど、有意義な研究会となりました。

【第2回】

12月15日(金)のセンター会議に先立ち、杉浦礼子研究員(名古屋学院大学准教授)より「少子化時代における高等教育機関で取り組むキャリア支援の方向性」として、講義をいただきました。

地域連携事業

(1)「津市包括的協力連携協定」連携事業

①一身田寺内町のWebサイトを構築

インターネット上の様々なサービスをうまく活用し、仕事や学業、生活に活かす方法を学ぶ科目「ネットワーク活用(鷲尾研究員担当科目)」では、一身田寺内町の商店街に焦点を当て、4店舗のWebサイトを構築しました。

まずは、6月30日(金)に、一身田商工振興会会長と、武野薬局、下津醤油、杉甚商店の各店主の方々が、来学し、店主の方々と学生たちとで、構築のためのキックオフミーティングを行うことからスタートしました。店主の方々がお店の説明をした後、学生が興味を示したお店に分かれ、店主を中心に制作のためのグループミーティングを行いました。その後1、2週間の間に、学生は、店舗に出向き協働で取材を行い、一人ひとりが課題としてWiXシステムを使って各お店のWebサイトを構築しました。

また、一身田商工会のページも鷲尾研究員の指導の下、オフィスワークコースの学生が一身田商工振興会会長の中川様と何度も打合せをして制作をしています。

これらのサイトは、次ページのURLより閲覧することができます。

ネットワーク活用の店舗サイト

<http://isshinden.wixsite.com/work2017>

一身田商工振興会サイト

<https://isshindenshoko.wixsite.com/main>

ミーティングの様子



② 「一身田印」商品のPR・試食販売会、アンケート実施を支援

昨年度発掘、開発提案を行ってきた「一身田印」商品のPR・試食販売会が、6月17日(土)・18日(日)に、道の駅津かわげにて行われました。一身田地域外で初めてPR・試食販売会を実施するにあたり、2年生が支援を行いました。また、一身田印商品の認知度などを聞くアンケート調査用紙の配布・回収を行いました。

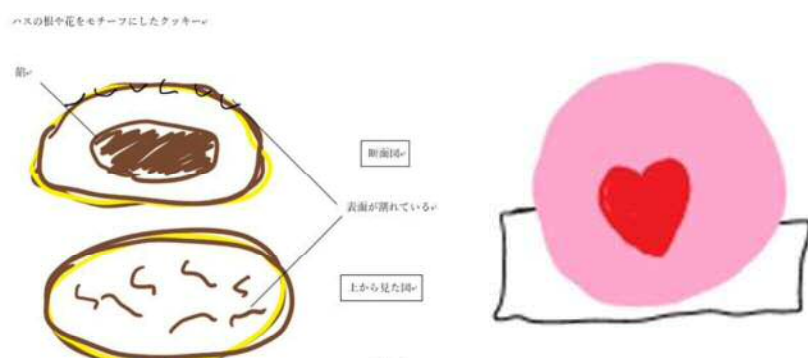


一身田商工振興会より、一身田印商品のブラッシュアップ、新商品提案の要望があり中畑ゼミ1年生13名が取り組みました。10月24日(火)、一身田商工振興会メンバー(中川会長、岡田屋さん)から中畑ゼミ1年生に、一身田寺内町、一身田印商品について、また、その課題についてお話をいただきました。

提案要望があった4店舗(いずれも製菓店)に担当グループを作り、担当店への提案を作成して11月21日(火)に訪問を行いました。また、お店の商品に関する課題、提案をしてもらいたい内容などについてヒアリングを行い、新たな商品提案の依頼や既存商品のパッケージの改善などの要望をいただきました。これまで開発した商品で継続的に販売されている商品が多くないこと、新商品開発には製造の手間や技術的な問題、コスト高などがあり、容易には出来ないことなどの課題も伺うことができました。

以降、各グループで要望に対する提案を考え訪問するなど、担当のお店と協働して新商品開発、既存商品のブラッシュアップに取り組んでいます。

(学生による提案例)



(2) シニアパソコン教室・パソコン指導ボランティア養成講座、子供パソコン教室開催

①シニアパソコン教室

平成21年度から続いているシニアパソコン教室は、平成29年度3回開催しました。

1回目は、全体の講師役を本学オフィスワークコースの2年生13名が担い、1年生12名とボランティア団体「情報ボランティアみえ（じょぼみ）」が、援助役として関わりました。2回目は、本学オフィスワークコースの1年生11名が講師役を務め、情報ボランティアみえと「パソコン指導ボランティア養成講座」受講者が援助役を務めました。3回目は、「パソコン指導ボランティア養成講座」の受講生が、講座学習の一環として講師役を学生とペアとなって担当し、講師をしていないスタッフ全員が援助役につきました。

受講者アンケートは良い評価を受け、成果のある教室となりました。

- | | | |
|------|-----------|--|
| 1回目 | 6月25日(日) | 受講者30名 |
| スタッフ | 36名 | 学生25名、じょぼみ10名、
研究員1名、中央公民館職員1名 |
| 2回目 | 12月17日(日) | 受講者27名 |
| スタッフ | 29名 | 学生11名、じょぼみ10名
パソコン指導ボランティア養成講座受講生7名、
研究員1名、中央公民館職員1名 |
| 3回目 | 3月4日(日) | 受講者30名 |
| スタッフ | 23名 | 学生11名、じょぼみ7名、
パソコン指導ボランティア養成講座受講生4名
研究員1名、中央公民館職員1名 |



講師を務める学生の様子



援助役を務める学生の様子

(3) パソコン指導ボランティア養成講座

今年で5回目となる講座で、鷲尾研究員が講師を務めました。今年は受講者が7名と少なかったものの少数精鋭の期待できる方々で、なかには前期に科目等履修生として本学の授業を受講した方もいました。11月26日(日)、に初回を開催しました。初回の内容は、講座の狙いや講師としての姿勢についてミニレクチャーしたのち、全員でパソコン歴や受講の目的について意見交換しました。連続講座6回の内容は右表のとおりです。

最終回には、シニアパソコン教室の講師役を務めるため、それに向かって準備を進めました。宿題となった指導案は、サイボウズLiveを使って内容を共有し、2月24日(土)には講師役となる4名が講師補助を買って出た学生5名と打ち合わせをしてリハーサルを行いました。6回は、受講者がシニアパソコン教室の講師役や援助役を学生と担当しました。最後に活動の振り返りをして、修了式を行いました。

パソコン指導ボランティア養成講座の概要

- | | | | |
|-----|------------------|-----------------------|----------|
| 1回目 | 「教えること」とパソコンの基本 | 11月26日(日) 10:00~12:00 | 於:中央公民館 |
| 2回目 | パソコン教室援助者体験 | 12月17日(日) 9:30~15:30 | 於:高田短期大学 |
| 3回目 | 知識確認、シニアパソコン教室内容 | 1月21日(日) 10:00~12:00 | 於:中央公民館 |
| 4回目 | 講座の準備、指導案作成 | 2月17日(土) 10:00~12:00 | 於:中央公民館 |
| 5回目 | 講師体験のリハーサル | 2月24日(土) 13:00~16:00 | 於:高田短期大学 |
| 6回目 | パソコン教室講師体験 | 3月4日(日) 9:30~15:30 | 於:高田短期大学 |



第1回パソコンボランティア養成講座の様子

(4) 地域連携事業「Access入門講座」の開催

① 地域連携事業の「Access入門講座－タケリとリレーションシップ増強版－」を9月28日（木）、高田短期大学PC教室にて、30名の受講者を迎え開催しました。鷲尾研究員が講師、学生6名が援助者として参加しました。

高田短期大学と百五総合研究所様、百五銀行様との地域連携事業として「Access入門講座」は昨年度2月に初めて開催し、今回で2回目の開催です。Accessをお使いの方、まだ使っていないけどこれから会社で使おうと考えている方などそれぞれの目的をもって三重県内の各企業から参加していただきました。

講座は、朝9時30分からお昼をはさんで16時30分までの6時間の一日講座で、リレーショナルデータベースの考え方、Accessの基本的な使い方、様々な機能を実現するオブジェクトの作り方、データのインポートの仕方など、多くのことを集中的に学習していただきました。



援助者（学生）を紹介



講座の様子

② 就業支援事業「業務効率が驚くほど上がる

知って得するWord・Excelの裏技」講座の実施

平成30年2月27日（火）、本学3号館PC教室にて、「業務効率が驚くほど上がる 知って得するWord・Excelの裏技Part3」の講座を開催し、参加者は27名でした。

昨年に引き続き百五銀行・株式会社百五総合研究所との共催により、川喜田研究員が講師を、ティーチングアシスタントを寺家尚美研究員が努めま



した。本講座用に作成したオリジナルテキストを使用し、Wordでは表作成を中心に、Excelでは関数の利用とデータの集計機能を紹介しました。

セミナー終了後アンケートを実施し、参加27名全員から回答を得た。講座内容は経営、実務に役立つものであったかに対して、全員に参考になるとの回答をいただきました。



セミナーの様子



学生ボランティア

③ 女性アスリートのセカンドキャリアを考えるシンポジウムの開催

平成30年1月6日(土)、本学講堂にて「女性アスリートのセカンドキャリアを考えるシンポジウム」を、スポーツ競技に打ち込む女性アスリートが、競技者として、また、競技者を卒業した後の将来像(セカンドキャリア)を描けるようになることを目的に開催しました。中学生・高校生・大学生・若手社会人アスリートとその保護者、指導者、アスリートの育成・雇用に関心のある企業・団体など147名の参加を得ました。

本シンポジウムは、百五銀行、百五総合研究所との地域連携事業として実施し、共催に三重県体育協会、みえ女性スポーツ指導者の会、NPO法人伊賀FCくノーと、幅広い機関の協力を得て行うことができました。百五銀行、百五総合研究所、三重県体育協会からは当日運営スタッフの派遣もいただきました。また、後援を三重県、津市、津市教育委員会から得ました。



日本体育大学教授杉田正明氏に基調講演「女性アスリートのセカンドキャリアを考える」とパネルディスカッションのコーディネーターを依頼しました。パネリストには、みえ女性スポーツ指導者の会会長武田美保氏、デンソー女子陸上部長距離部部长 堀誠(デンソー大安製作所長)氏、高田短期大学サッカー部監督・みえ高田FC監督宮本ともみ氏、住友電装所属女子ラグビーフットボールクラブPEARLS選手・キャプテン伊藤絵美氏に務めていただきました。

新聞などにも大きく取り上げられ、女性アスリートが活躍できる環境づくりの提案、問題の啓発につながりました。



講師・コーディネーター
杉田 正明 氏



コーディネーター・パネリストの皆様

(5) 女性起業家支援ネットワーク構築事業への参加

① 経済産業省女性起業家支援ネットワーク構築事業に支援機関として昨年より参加しており、同事業の一環として開催された「Myスタイル企業シンポジウム（9月18日（月・祝））」に、キャリア研究センター長である教授の中畑が参加しました。

これから起業しようとする女性、起業してすぐの女性などを対象に、先輩女性起業家から話を聞いたり、支援機関との相談機会を設けたりするものです。参加者は約130名でした。

また、同事業の支援機関紹介のHPにキャリア研究センターの紹介を掲載しました。

シンポジウムの様子



センター事業

(1) 「クレーム対応基礎講座」を実施

8月8日（火）、本学図書館グループワークコーナーにて「クレーム対応基礎講座」を開催し、4社10名の方に参加いただきました。講師は、長谷川研究員が講師を務めました。参加者が実際に悩まされているクレームを伺い、それへの適切な対処法を織り込みながら、講義を行いました。



(2) 「高短One dayセミナー」の実施

平成30年2月3日（土）、キャリア研究センターの事業の1つの柱である、地域に向けたキャリア形成の支援・研修事業の一環として、高校2年生を対象とした高短One dayセミナーを開催しました。

野呂主任研究員と野崎研究員がそれぞれ講師を務め、望ましいコミュニケーションのあり方やチームで協力することの大切さについて、ゲームやグループワークを主体とした体験型の2講座を行いました。また、参加高校生が在学生から学生生活等について話を聞く機会を設けました。

講座1では、アイスブレイクとして、参加者が互いに共通点を見つけるゲームに取り組んだ後、言葉で伝えることの難しさやコミュニケーションで気をつけるポイントを体験するペアワークを行いました。

講座2では、与えられた30枚の紙だけを使って、できるだけ高いタワーを作るグループワークに挑戦し、チームで協力して目標を達成するために重要なことは何かを学ぶ機会となりました。



講座1の様子



講座2の様子

研究紀要、情報誌等の発行

(1)「キャリア研究センター研究・年報」第4号発行（平成30年3月31日(土)）

人材育成、雇用・労働問題、地域社会等に関する創造的な研究・調査活動を促進し、その成果を広く学内外に問うことを目的とする「キャリア研究センター紀要・年報」の第4号を発刊しました。本年度は運営委員（中畑センター長、野呂主任研究員、鷲尾研究員、畠山研究員）が編集委員を兼務し、その責任において編集しました。

掲載内容は、紀要（センター事業に関連する研究論文等、各分野の総論）と、年報（キャリア研究センター実施事業、オフィスワークコースの活動紹介、研究員紹介）で構成しています。

なお、配布先及び配付部数は、学生の就職先60部、社会体験実習先60部、各高等学校70部、保護者（キャリア育成学科1・2年）160部、本学教員（常勤・非常勤とし、予備冊数を加えた500部）を発行しました。

介護福祉研究センター

会議関係

運営委員会

日 時	議 事 内 容
第1回：平成29年5月29日（月）	<ul style="list-style-type: none">▪ 運営委員会の開催日時▪ センター会議及び介護福祉セミナー▪ センター紀要「介護・福祉研究」▪ センター事業担当者▪ 介護福祉研究第3号の配布▪ 三重県文化会館との連携
第2回：平成29年6月25日（日）	<ul style="list-style-type: none">▪ 運営委員会の開催日時▪ 新規研究員の推薦▪ センター紀要「介護・福祉研究」第4号
第3回：平成29年7月 6日（木）	<ul style="list-style-type: none">▪ 執筆希望者の確認▪ 今後の事業確認
第4回：平成29年8月24日（木）	<ul style="list-style-type: none">▪ 後期センター会議▪ 定例研究会▪ 介護職員キャリアアップ講座▪ 高校生等を対象とした介護福祉啓発活動▪ 介護福祉セミナー▪ 地域の高齢者に対する介護福祉啓発活動▪ 施設との交流事業▪ 研究紀要▪ 懇親会
第5回：平成29年10月11日（水）	<ul style="list-style-type: none">▪ 定例研究会▪ 介護職員キャリアアップ講座▪ 地域の高齢者に対する介護福祉啓発活動▪ 施設との交流事業▪ 研究紀要

第6回：平成29年12月 6日（水）	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 後期センター会議 ▪ 介護福祉セミナー ▪ 平成29年度事業経過報告案 ▪ 平成30年度事業計画案 ▪ 平成30年度予算案 ▪ 新規研究員の推薦
第7回：平成30年 2月13日（火）	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 定例研究会 ▪ 次年度の事業計画 ▪ 介護職員キャリアアップ講座 ▪ 研究紀要の進行状況、予算 ▪ 今年度予算の執行状況

センター会議

前期センター会議：平成29年6月25日（日）

於）介護福祉研究センター

- 平成28年度事業報告
- 平成29年度事業計画
- 辞令交付



後期センター会議：平成29年12月16日（土）

於）介護福祉研究センター

- 平成29年度事業経過報告
- 平成30年度事業計画
- 平成30年度予算案

研究活動

定例研究会

第16回定例研究会：8月29日（火） 於）介護福祉研究センター

テーマ：「児童養護施設聖マッテヤ子供の家における「安全委員会」への取り組み」

発表者：黒宮 英二研究員、参加者：11名

内容：聖マッテヤ子供の家施設長の黒宮研究員より最初に、日本の社会的養護の現状と児童養護施設の役割について説明を受けました。その後、施設における様々な暴力問題を解決・改善するために提案されている「安全委員会」方式について説明を受け、施設で導入することになったきっかけとその経緯について話を伺いました。


第17回定例研究会：9月21日（木） 於）介護福祉研究センター

テーマ：「自閉症支援の法的規定—いわゆる自閉症施設から自閉症支援へ」

発表者：植木 是研究員、参加者：8名

内容：植木是研究員より、先行研究のレビューと自閉症者支援の実践の歴史を振り返りながら、自閉症者が歴史的にどのように位置づけられてきたのか、自閉症施設がどのように扱われてきたのか、自閉症者に対する支援がどのように発展してきたのかについて発表が行われました。



<p>第18回定例研究会：10月18日(水) 於) 本学介護福祉研究センター</p> <p>テーマ：「母子生活支援施設入所世帯の所得変動に関する考察—入所後3年間の所得に注目して」</p> <p>発表者：武藤 敦士研究員、参加者：12名</p> <p>内容：武藤敦士研究員より発表が行われました。 2002年改革と言われる国の施策から動き出した母子世帯の現状、施設や行政の動向、さらには施設入所世帯の現状について話を伺いました。この研究結果は介護福祉研究センター紀要「介護・福祉研究」第4号に掲載されました。</p>	
<p>第19回定例研究会：11月22日(水) 於) 本学介護福祉研究センター</p> <p>テーマ：障害者問題に於ける「違う」と「同じ」の狭間—相模原障害者殺傷事件からの考察—</p> <p>発表者：山本 啓介研究員、参加者12名</p> <p>内容：山本啓介研究員より報告いただきました。相模原障害者殺傷事件の犯人が「違わない」ことを「違う」ととらえた背景に何があったのか、犯人が発信したメッセージを手がかりに、なぜそのような思考(思想)に至ったのかを様々な「違う」と「同じ」に関する事例を通して説明していただきました。</p>	
<p>第20回定例研究会：12月13日(水) 於) 本学介護福祉研究センター</p> <p>テーマ：在宅における医療的ケアの看護職、介護職の連携・協働の現状と課題</p> <p>発表者：福田 洋子研究員、東 律子研究員、参加者9名</p> <p>内容：東研究員、福田研究員より発表が行われました。訪問看護、訪問介護事業所でのアンケート調査から明らかになった医療的ケアの現状と看護と介護の連携の課題等について話を伺いました。</p>	
<p>第21回定例研究会：平成30年1月17日(水) 於) 本学介護福祉研究センター</p> <p>テーマ：音楽療法セッションにおける期待できる効果について</p> <p>発表者：長谷川 恭子研究員、参加者8名</p> <p>内容：長谷川恭子研究員から音楽療法士として実際に取り組んでいる活動を通じた実践報告がありました。高齢者を対象にトーンチャイムや指揮棒を取り入れた活動や社会貢献につながる活動を通して、立位の保持など身体機能の維持・改善が図られることや、自発的な行動の促しなど意欲の引き出しによって豊かな生活を実現していく実践例が報告されました。また、社会貢献を目的とした活動では、社会との接点を持ち他者から認められることを通して自己肯定感を高めていく効果についても報告がありました。さらに、集団活動に参加することによる効果だけでなく、心身の状態によって参加できない利用者の居室を訪問して、個別に行う音楽療法についても併せて話を伺いました。</p>	
<p>第22回定例研究会：平成30年2月21日(水) 於) 本学介護福祉研究センター</p> <p>テーマ：障害者差別解消法・その後～合理的配慮の実態～</p> <p>発表者：蒔田 勝義研究員、参加者13名</p> <p>内容：蒔田勝義研究員から聴覚障害者の事例を中心に、障害者に対する差別の現状と課題について報告いただきました。報道された学校、職場、病院など様々な生活場面で起きた差別事例の問題点を解説していただくとともに、身近な県内各地の事例を紹介いただきました。参加者は質疑応答を通して合理的配慮について考えるとともに、当事者が自ら合理的配慮を求めることができるようにエンパワメントしていくことが支援者に求められていることを学ぶ機会になりました。</p>	

実施事業

高校生等を対象とした介護福祉啓発活動

介護体験バスツアー：8月8日（火） 10：00～15：00
於）特別養護老人ホーム安濃聖母の家、
特別養護老人ホーム報徳園



参加者：7名（高校生3名、留学生4名）、
ボランティア学生2名、研究員3名

介護福祉セミナー

6月25日（日） 13：00～16：20 於）高田短期大学 介護実習室

第1部「福祉用具の選び方、使い方」

講師：中川 千代研究員

第2部「電動リフターの使用方法」

講師：阿部 良隆氏

（モリトー営業部中部営業所主任）

参加者：各講座20人（一般5人、卒業生6人）



12月16日（土） 13：00～16：20 於）高田短期大学 介護実習室

第1部「音楽療法を体感～音楽と運動とおしゃべりタイム♪」

講師：長谷川 恭子研究員

第2部「福祉施設における虐待の現状」

講師：徳山 貴英研究員

参加者：各講座30人



白子公民館の高齢者と学生の交流事業

第1回 6月3日（土） 11：00～12：00

高齢者：18名、学生：15名、研究員：1名

内容：「明日があるさ」に合わせた簡単な体操、
あいこジャンケン班ごとに「いつでも夢
を」の歌に合わせた楽しい体操を考案する。
※今年度は名札をつけ、個人を意識した関
わりを目指す
※介護福祉研究センター第3号の冊子配布



第2回 7月1日(土) 11:00~12:00

高齢者：18名、学生：10名、研究員：2名
内 容：「ふじの山」「三百六十五歩のマーチ」に
合わせた軽い体操
紙風船たたき（名前を呼びバトン）
スポンジタワー、お金持ちゲーム



第3回 8月5日(土) 11:00~12:20

高齢者：18名、学生：10名、研究員：1名
内 容：「いつでも夢を」に合わせた軽い体操
（皆で考案したもの）
クロスワードパズル（2種）
～模造紙に大きく書く（留学生）



第4回 10月7日(土) 10:40~12:15

高齢者：10名、学生：5名、
卒業生：1名、研究員：2名
内 容：公民館利用者による講演（戦争体験）
切り絵作品づくり（ラミネーターを使って）



第5回 11月4日(土) 11:00~14:30

高齢者：10名、学生12名、研究員：1名
内 容：「いつでも夢を」に合わせた軽い体操
チーム対抗人間すごろく
※終了後、白子公民館成人講座受講生の所有する畑でサツマイモ掘り体験
（伊勢新聞 2017. 11. 5 に掲載）



第6回 平成30年1月6日(土) 11:00~13:00

高齢者：9名、学生：12名、研究員：2名
内 容：「いつでも夢を」に合わせた軽い体操、折り鶴、
ハネ馬づくり、ハネ馬を使った競争ゲーム
2年生より「交流サロン」の学びについて発表
公民館より2年生に感謝状と記念品の贈呈



第7回 平成30年2月3日(土) 9:30~12:00

高齢者：5名、茶道教室のメンバー6名、
学生：7名、研究員：1名
内 容：旅クラブの会員向けにネパールの踊り披露
お茶会体験、ネパールの踊り披露、
公民館より1年生に感謝状の贈呈
(中日新聞「鈴亀ホームニュース」
2018.2.24に掲載)



講演会

- 10月6日(金) 10:00~於：一身田桜町公民館
- 講師：中川千代研究員
- テーマ「認知症予防」、参加者：28名

社会福祉施設との交流事業

11月14日(火) 3限目の授業時、高田光寿園に訪問し高齢者と交流し学びあう。
介護福祉コース2年生が2グループに分かれ、歌やクイズ等のレクリエーション活動を提供。

白子公民館との交流

- 11月28日(火) 11:00~14:00
- 2限目(1年生)及び3限目(2年生)の授業の中での交流
- 学生食堂にて昼食をとりながらの交流
- 公民館利用者8名、学生37名 伊勢新聞に掲載(11月29日付)



高田光寿園での交流事業



本学での高齢者との交流事業

三重県文化会館（三重県文化振興事業団）との共同研究

- 6月30日（金）3限目、5限目
- 「介護に寄り添う演技体験講座」
- 講師：菅原直樹氏（俳優、介護福祉士、四国学院大学非常勤講師）
- 参加者：介護福祉コース2年生15名



その他学内情報

ボランティア活動支援室

本学の教育理念である「やわらか心」の実践の場として、全学生にボランティア体験活動プログラムを組み実践させることへの取り組みをしています。平素培った専門的な知識や技能は、学外で発揮できるよう独自の協働プログラムを用意し活用に力を注いでいます。

全国的にも注目されるユニークな活動

三重県警察本部との協働プログラムを立ち上げ、サイバー犯罪被害防止活動に取り組んでいます。また、タイ・ラオス・ミャンマー山岳少数民族の子ども支援に取り組み、トイレのない小学校へのトイレ作り、無給先生の給料支援等にも力を入れています。



学生は1年間を通して多くのボランティア活動に参加しています。学外ボランティアには総数415名、学内ボランティアには総数444名が参加し、さまざまな活動を通して多くの方々に接するなかで、授業では学ぶことが出来ない貴重な体験をしています。

高等教育コンソーシアムみえ、三重大学COC+について

平成26年3月に三重県内高等教育機関相互並びに県内高等教育機関と地域との連携を促進することにより、県内高等教育機関の教育、研究、地域貢献の各機能の向上を図り、人口減少の抑制及び地域の活性化を実現することを目的に本学も参画し様々な事業を展開しています。

また、同時に三重大学の「COC+」プログラムにも参画しており、3年後には全ての事業が高等教育コンソーシアムみえに包括される予定です。高等教育コンソーシアムみえと事業を分担して展開しています。双方の運営本部は三重大学に置き、本学は協同して次の実施事業を行ないました。

- ① 平成29年度には「大学生の結婚等意識調査及びライフプラン教育促進事業」に関するアンケートを実施しました。及びリーフレット等の企画へ参画しました。
- ② 高等教育機関に所属する教職員の地域貢献活動に関する実態調査をしました。
- ③ 高等教育コンソーシアムみえ単位互換協定の締結のうえ参画しました。
- ④ 高等教育コンソーシアムみえ合同FD・SDの参加をしました。
- ⑤ 学生の地域活動支援として「びたゼミ」を利用したボランティア活動を実施しました。
- ⑥ 高等教育コンソーシアムみえの自立的・安定的な運営方針の企画に参加しました。
- ⑦ 三重創生ファンタジスタ資格の企画と実施をしました。

施設設備の整備事業の実績

<p>1、エアコン入替 音楽棟1階音楽室Ⅰ 同2階練習室3～練習室7</p> <p>施工業者 (株) エリイ</p> <p>施工費用 1, 595, 800円</p> <p>施工時期 平成29年8月</p>	
<p>2、床張り替え工事 音楽棟1階音楽室Ⅰ</p> <p>施工業者 (株) 辻工務店</p> <p>施工費用 777, 760円</p> <p>施工時期 平成29年9月</p>	
<p>3、無線アクセスポイント新規設置工事 (1号館2階育児文化室無線)</p> <p>施工業者 (株) システムテクノ</p> <p>施行費用 343, 656円</p> <p>施工時期 平成29年9月</p>	
<p>4、各教室学生机・椅子入替</p> <p>入替場所 1号館 121、122、131、132教室、子ども学科準備室(椅子) 2号館 221、222、223、231、232、233教室、 第4、第7、第9演習室、キャリア支援センター(椅子) 3号館 321、322、323教室、情報演習室Ⅰ、プレゼンテーション室、オフィス演習室 音楽棟 音楽室Ⅰ、音楽室Ⅱ、練習室1～7、レッスン室1～8</p> <p>施工業者 愛知株式会社</p> <p>施工費用 18, 252, 000円</p> <p>施工時期 平成30年3月</p>	

命の大切さを考える教育の推進

本校の建学精神である「仏教の教え、親鸞聖人の教えに基づく宗教的情操教育」を校訓として、仏教教育による人間味の豊かさを求め、規律精神を基とした行動力の育成と基礎学力の充実錬磨につとめ、広い視野から社会貢献できる人材の養成を目指した教育を行っています。

月1回の本山参詣や週1時限の一般仏教において自他共にかけがえない「命」を尊重し、人間は一人で生きられない存在であり、他者と共感共有し支え合って生きる重要さに気づかせています。特にいじめの未然防止といじめを許さない、いじめをさせないことなどを視野に入れて、行事や授業に反映させています。

また、その場で仏教講話を聴聞することを通して、聞くことの大切さ、その受容により共感する大切さを身につけることにつながると考えています。これらの体験活動を基盤として人権学習とも連携しあい、社会でのマナー、コミュニケーション力を向上させ、自然との共生に関心を持って身近な日常生活の中で思いやりと慈しみのある生き方をじっくり養成しています。いじめ問題に対しても適時アンケートを実施し事実関係を把握し毅然とした指導を行っています。



キャリア教育の推進

生徒が育つ社会環境の変化に加え、産業・経済の構造的変化、雇用の多様化・流動化等は、生徒たち自らの将来のとらえ方にも大きな変化をもたらしています。また、環境の変化は生徒たちの心身の発達にも影響を与えています。とどまることなく変化する社会の中で、変化に恐れず、社会に対応していく力を育てることが不可欠となってきています。

生徒が未知の知識や体験に関心を持ち、仲間と協働して学ぶことを通して、未経験の体験に挑戦する勇気とその価値を得ることで、生涯にわたり学び続ける意欲を維持する基盤を作り出せるものと考えています。

社会体験等の校外活動は、他者の存在の意義を認識し、向社会性を高めたり社会との関係を学んだりする機会となり、将来の社会人としての基盤づくりともなると考えられています。

その基本に基づき、本校は、ほとんどの生徒が進学を希望している関係上、進路情報の豊富な企業や大学と連携し、自己研鑽の一助としています。また、夏休みを利用しての体験型校外学習として、高校4年生は、自らコンタクトをとり現場へ直接出向き、実際に社会で活躍している方々の話を聞くなどして、自分自身が求める将来像について、より一層理解を深めるべく自己努力に努めています。

進路・職業観を考える学習会等

	鈴鹿医療科学大学連携講座	進路ガイダンス
対象	高1・2・3年	高2・3年
実施日	5月18日(木)	6月30日(金)
内容	薬学・看護・医療技術学部関係者による医療系学部の現状説明	大学・短大・専門学校の個別相談会



高4年 校外宿泊学習（7月24日(月)から26日(水)までキャリア学習の一環として、 東京の企業・大学で研修を実施）

4年生を対象とした東京キャリア宿泊学習を実施しました。

1日目は証券取引所・工場など5つの行先に分かれて見学を行い、夜には、㈱グローバルアース代表取締役の藤本正樹先生による講演を拝聴しました。“自分の枠は本当に「自分の枠」？～みんなに伝えたい世界からの教え～”と題された講演で、アクティビティーや映像を交えてグローバルな時代を生き抜くために本当に必要な知識や考え方について自身の経験を交えてお話しいただきました。

2日目は生徒が希望する研修先に自身でアポイントメントを取り、交渉を行った訪問先で研修を行いました。夜には20名のOBOG生によるグループ別の座談会を行い、職種・年代の異なる方から仕事のやりがいについての話を伺いました。

3日目は国会議事堂内の見学を行いました。

この研修は本年度で7年目となる行事であり、本校6年コースのキャリア教育の柱と位置付けられています。生徒達には積極的に研修に取り組む様子が見られ、この研修を通じて将来の夢や志望の幅を広げることができ、学習のモチベーションを上げる良い機会となりました。



部活動の推進

部活動は学年や学級を離れ、共通の興味と関心を追求し、その中でマナーやルールを守る社会性を身につけることや、自らの意思で参加し活動するという自主性を養い、活動を通して体力や技術の向上にとどまらず、個性の伸長を図ることを目的とする教育活動の一つであります。

集団活動の中で協力することを学び、より高い水準の技能や記録に挑戦する中で、部活動の楽しさや喜びを感じ、学校生活に豊かさをもたらすだけでなく、生涯にわたってスポーツ・文化・芸術・科学に親しむ豊かな人間性を培うことを目指し、継続的に取り組んでいます。

中学生においては人間形成をするうえで重要な時期であるため、継続し続けることに関して部顧問と密接に連携し、自分を律し他人を思いやること、社会のルールを学ぶ一助としています。

また、練習成果を競う県内大会において優秀な成績を収めることで、更なる大きな目標に向かう意欲が部活動の大きな継続性になっていると考えられます。

平成29年9月現在のクラブ活動所属生徒数

高等学校	文化部	25部	525名	(男152名・女373名)
	運動部	18部	620名	(男394名・女226名)
	同好会等	5部	122名	(男43名・女79名)
			計1,267名	
中学校	文化部	10部	164名	(男80名・女84名)
	運動部	11部	384名	(男220名・女164名)
	同好会等	7部	37名	(男12名・女25名)
			計585名	

活動実績

高等学校

運動部	インターハイ	馬術(全国大会 団体準優勝・長野 天佑 個人第3位)・卓球・なぎなた
	国民体育大会出場	馬術・卓球・なぎなた・ヨット(個人参加)
	その他東海大会出場	水泳・軟式野球・陸上競技
	三重県総合体育大会	女子全日制の部総合3位
	その他	田嶋瑞貴(世界ユース選手権ボルダリング3位、個人参加)
文化部	全国大会出場クラブ	将棋・放送・文芸・書道・漫画アニメ
その他		河村菜々子(第10回日本地学オリンピック金賞・日本地球惑星科学連合賞)



防災教育・危機管理教育の取り組み

火災、地震など予測不可能な緊急事態が発生した場合、発生時に冷静な判断力、速やかな行動力を発揮できるよう、防災意識の高揚に取り組むべき事業展開を推進しています。

9月6日（水）に昨年度同様、地域住民の方（約150名）、津市及び消防署等の関係団体との連携のもと、合同避難訓練を実施しました。当日はあいにくの天候で、グラウンドが使用できなかったため、当初予定した訓練内容を変更し、屋内にて実施しました。訓練は、震度5弱の地震を想定し、すみやかに体育館へと避難しました。避難訓練後は、一身田自治会へ非常食や防災グッズが入った「白い小箱」の贈呈や、津北消防署署長様からのお話がありました。

その後、体育館から大津波警報発令時の避難場所へと移動しました。大地震を想定した大がかりな訓練であり、防災への意識を高めました。地域住民の方には、災害時の避難所等における体操などについて、津市危機管理防災室の職員より講習していただきました。

また、本年卒業生が学校へ寄付していただいた非常食を地域住民備蓄用品として贈呈し、地域貢献にも努めており、その他には市や施設にも寄付を行っています。

危機管理の取り組みとして、学内機密情報の保護のため、パソコンや端末記憶装置持ち込み等について、取扱規則を定めて個人情報の漏洩がないように、教職員に意識の徹底をはかっていると共に、学校関係者や生徒間での誹謗中傷を早期発見するため、専門の業者に監視を委託するなど対策に努めています。

保護者への情報発信源としては、「あんしんネット」、「きずなネット」等を利用し、最新情報を随時的確に提供しています。



避難訓練 9月6日（水）実施	
目的	地震発生時における避難場所、避難経路の確認 地域の住民の実態を把握する 本学と地域住民の連携による避難誘導
要領	想定状況：震度5弱および大津波警報発令
訓練内容	避難の実働訓練 地震発生による身の安全確保、 および地域住民の避難誘導・避難介助 協力団体による非常食等の試食体験、津市職員による地域住民への災害に関する講習

教職員資質向上への取り組み（初任者研修、学内研修、中部私学研修、中堅研修など）

新規採用教員研修の推進

初任者研修として中京地区の他の私学教員と8月23日(水)から25日(金)までの3日間で愛知・岐阜・三重県下私立学校合同合宿研修を実施し、私立学校教員としての実践的指導力と使命感を養うと共に、幅広い識見を習得させることや心構え等について研修し教育指導の充実を図りました。（本年2名参加）

初 日	講演テーマ		
	「私学の現状と課題」	日本私学研究所所長	中川 武夫氏
	「教育をとりまく現況と私学教育の基本について」	(株)エデュケショナルネットワーク ソリューション事業本部次長	光延 栄治氏
	「授業の中にアクティブラーニングを取り入れよう」	大同大学大同高等学校校長	服部 保孝氏
2日目	グループワーク・班別研修	日本体験学習研究所長	津村 俊充氏
3日目	集団行動訓練・ヨット操船講習等	至学館高等学校	稲垣 克憲氏
		愛知啓成高等学校	大友 伸夫氏

研修参加教員からは、他校等の交流をはかることもでき、よい機会であったと感想がありました。

さらに本校においても学内研修として独自に、本年も12回の研修を次ページの表にある内容で、指導教員が生徒との接し方や指導方法、事務的内容を伝授し、教員として一日でも早い自立を目的として実施しています。また、終了後は校長や教頭を囲んでオフサイトミーティングを行い、翌年度の実施計画案に役立てています。

教員研修の推進

教育を取り巻く環境が大きく変化する中で学校教育に対する期待に応えるには、教員の資質能力向上とスキルアップが必要なため、それに対応できうる教員研修を推進していきます。

多種多様な資質能力を持つ人材の集まりである教員集団が連携することにより充実した教育活動が展開できることから、その能力の保持のためにも研修は重要と考えられます。

研修については、これまでの自分自身の教育活動を振り返るとともに、教育界の最新情報を理解して将来への課題を自覚し、これからのリーダーシップを発揮するためのものです。本校のほとんどの生徒が大学進学を希望している関係上、大学ごとの入試問題検討会にも積極的に参加し、大学によって毎年変更される問題傾向や入試情報を少しでも生徒に有利な環境に導くべき把握に努めています。

また、公立中学校へ出向いて本校の模擬授業を実施するという事は、本校教員の資質を問われる関係上、普段以上の緊張感で接することで、より自分自身の研究も必要となり、教員としての資質向上につながっていくものと考えられます。

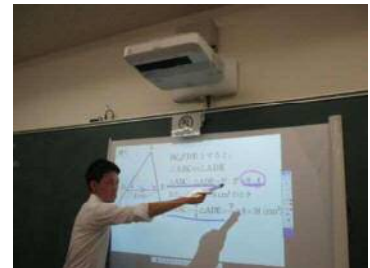
研修内容については、職員会議等において報告を行い、他の教員と情報共有することで教員全体の意識向上を図っており、その成果が生徒へ還元されていくことで、教育の質の向上につながっています。今後も積極的に講習会や研修会、出前授業に積極的に参加し、学校内では得ることのできない情報を吸収することで、新人からベテランまでその教員としての資質向上に役立てていくことを目標としていきたいと考えています。

平成29年度 初任者研修 年間実施表

	研修テーマ	実施日時	担当者	研修場所	備考
1	初任研OR	4月28日(金) 15:40～16:30	教頭	4号館会議室	
2	高田の歴史と建学の精神について	5月 2日(火) 15:40～16:30	学校長		
3	学校法人の規定について	5月11日(木) 15:40～16:30	本部事務局長		
4	教職の実務 中・高の教務	5月23日(火) 15:40～16:30	教務部長		
5	学校評価	6月 8日(木) 15:40～16:30	教頭		
6	学校の危機管理	6月19日(月) 15:40～16:30	教頭		
7	人権推進教育	7月13日(木) 14:00～14:50	人権教育委員		
8	生徒指導	8月 4日(金) 10:00～10:50	生徒指導部長		
9	教育相談	9月11日(月) 15:40～16:30	教頭		
10	特別支援教育・カウンセリング	10月26日(木) 15:40～16:30	養護教育・学校カウンセラー		
11	進路指導	11月 9日(木) 15:40～16:30	進路指導部長		
12	コンプライアンス (服務規程と教育法規)	11月24日(金) 15:40～16:30	教頭		

ICT 教育とアクティブラーニング対策

かねてより導入検討を重ねてまいりました電子黒板付プロジェクターを、8月に全教室に設置いたしました。今年度2学期からはデジタル教科書、視聴覚教材などを活用してより分かりやすく深まる授業の実現、アクティブラーニングへの活用を行っていきます。また、連絡等の効率化、学力向上に向けたツールの研究・検討を行い、更なる ICT 教育を推進していきます。



きめ細やかな学習指導の推進

本校では、生徒の進度や達成度に応じた指導を行うと共に、生徒の学力及び特質に応じたコース・クラス編成を考慮しながらその指導に努めています。

通常の綿密な計画に基づいた授業は勿論のこと、小テスト、補講、夏期講習といった普段では取り組みにくい授業を実施したり、考査後の個別懇談をするなどして進路実現のためのサポートを実施したりしています。

さらに、夏期休業中においては各学年創意工夫されたセミナーを実施し、苦手な分野の克服に努めており、生徒も有意義な時間を過ごしています。

また、学習以外の面で、不登校や精神的な悩みを抱える生徒の増加が見られますが、本校においては教育支援委員会、生徒指導部、各学年、カウンセラーと協力して保護者や生徒の負担を少しでも軽減できるように努め、明るく元気な学校生活ができるよう取り組んでいます。

今後も親切丁寧な繰り返し学習や習熟度に応じた個別指導を行うことにより、学習意欲と実力向上に努めていき、生徒全体が楽しく充実した学校生活を送れるよう、きめ細かく生徒の実情把握に努めていきます。

国際交流事業

目的	国際感覚豊かな人間育成のため、授業や諸行事に参加しながら異国の学生生活を体験し、友好を深めること。 互いの生活習慣や文化を学び、今後の交流振興に貢献すること。 受け入れ家庭が、生徒と共に学び、生活することにより異文化理解を深めていくこと。
----	---

オーストラリア交換留学生受け入れ		
期間	9月17日(日)～9月28日(木)	
受入校	パレード校	13名(男13名) 引率教員2名
	セント	17名(男5名・女12名) 引率教員2名
	モニカズ校	

本校の授業に参加して生徒の家庭にホームステイすることにより異文化を体験し、さらに日本を象徴する場所伊勢・京都・名古屋・大阪への訪問を通して、日本の素晴らしさに一層興味を抱いてもらうことで、国際交流の意義が発揮できるものと考えられます。台風の影響もありましたが、無事日程を終了しました。



オーストラリア交換留学生訪問		
期間	平成30年3月16日(金)～30日(金)	
訪問校	パレード校	17名(男14名・女3名) 引率教員2名
	セント	16名(男3名・女13名) 引率教員2名
	モニカズ校	

留学先では、各家庭にホームステイすることにより異文化を肌で感じ、家族や生徒との会話を通して自分の英語能力を試す機会にもなっています。また、こうした体験で視野が広がり、国際感覚を養ううえで貴重な経験となっています。



語学研修

第4回イギリス語学研修		
期間	7月14日(金)～7月31日(月)	
人数	28名 引率教員1名	

イギリスギルフォードにある語学学校のインターナショナルクラスにおける、他国生徒とともに学ぶ英語学習を主眼に置いた研修プログラムに参加し、高校生の短期語学研修を実施しました。

生徒たちは、事前ワークショップにおいて「間違いを恐れずやってみる」という姿勢が大切であるということを経験し、本事業に参加しました。



この研修の対象者は英語に関心が深く、英語学習に意欲的に取り組んでいる生徒の中で選抜された生徒が参加しており、出国前のレベル試験を受けて海外での語学研修（1日6時間を7日間）後もレベルアップの程度を見る試験を受けています。さらにホームステイにより英語の運用能力の向上や英語学習へのより一層の動機付けを促し、学習意欲を育むだけでなく、他国の生徒との交流が国際人としての国際感覚を養うこととなりました。

イングリッシュキャンプ

期 間	8月23日（水）～24日（木）
人 数	34名

特選クラス生徒を対象に、夏期休暇中に英語を身近な生活スキルとして使う体験として、終日英語漬けの「イングリッシュキャンプ」を実施しました。今年度は高田本山宗務院2階の会議室をお借りして、宿泊せずに連続2日間実施しました。参加した生徒たちは日常使う英語を用いて、様々なアクティビティを楽しみ、大いに英語への興味、関心、そして話す力を高めることができました。



英語科特別顧問 横山カズ氏による「リスニング1DAYインストール」

大学の入試改革に伴い、これからの英語は「読む、書く、聞く、話す」の4技能評価となることもあり、今年度JAL等の大手企業で同時通訳者として活躍されている横山カズ氏に英語科特別顧問をお願いし、5月30日（火）に高校3年生・6年生を対象に「耳と頭脳を一気に作る！～本番で余裕で勝てるリスニング～」をテーマとしたリスニング1DAYインストール（英検・センター試験対応）講座を開催しました。6限後の開催ではありましたが、1時間半しっかり熱の入った講義となりました。そして最後には、教頭先生の挨拶を横山先生の本職である同時通訳していただきました。また、夏期休暇中のセミナー等でも講座を実施しました。



エンパワーメントプログラム

12月25日（月）～27日（水）の3日間に4、5年生の33名が参加し、英語によるコミュニケーション力の向上及び自己分析と自己啓発を目的としたエンパワーメントプログラムが実施されました。

東京大学や筑波大学、オーストラリア・クイーンズランド大学などに在籍する外国人留学生をリーダーとして5～6名のグループを作り、各グループにおいてリーダーに必要な要素や自分のアイデンティティなどについて思考し、グループ毎に意見を共有しました。

プログラム中の会話や説明はすべて英語で行われ、最初はファシリテーター（司会者）や外国人留学生の言葉が理解できず戸惑ったり、意見を思うように表現できないもどかしさも見受けられましたが、最終日には全員がそれぞれの将来の夢と3日間で得たものについて発表することができました。



学校自己点検・学校関係者評価

学校関係者評価委員会

自己評価や保護者、学校関係者による評価の実施・公表により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者や地域住民からの理解と参画を得ながら、学校・家庭・地域の連携協力により生徒の穏やかな成長をはかり、健全な学校づくりを推進することを目的としています。

なお、評価委員は委員数9名（教育関係者、学識経験者、地元企業、地域自治会、保護者会）から成り立っています。

第1回	平成29年4月13日（木） 学校現況について説明した後、各委員から意見をいただき、質疑応答形式で進められました。各委員からは通学路関係やいじめ対策などについて質問がありました。本校からは校長、教頭が出席し、各委員と協議事項について意見交換を行いました。
第2回	平成29年10月26日（木） 平成29年度上半期の学校現況及びICT教育に係る導入機器の活用状況報告、生徒の動向等に基づいて行われた意見交換では、各委員より建設的な意見をいただきました。
第3回	平成30年2月15日（木） 生徒指導・安全対策、生徒募集・進学状況等について意見交換を行い、教員のクラブ指導等による超過勤務対策や学習指導要領の改定への対応についてなど教育現場を取り巻く問題に対し意見をいただきました。平成29年度総括としては概ね良好な評価をいただきました。

学校自己評価

学校自己評価については、例年どおり「学校の教育目標や教育活動の内容・方法、教育成果、学校の管理運営などについて、より一層の教育活動の充実を図る」という趣旨で教育活動全般にわたる自己点検・評価を行い、継続的な改善更新、改革を図っています。

平成29年度の目標

目指す学校像 （教育理念）	生徒・保護者・社会の期待に応え、伝統を重んじ信頼される私学を目指す。 校訓「言行忠信 表裏相応」の精神のもと、人間性豊かな人材を育成する。 崇高な志と社会に貢献できる人材を育成する。 自分の夢の実現に向けて、自ら学び、自己を律し、行動できる人材を育成する。
重点努力目標	人権・同和教育の推進、進路指導の徹底、基本的な生活習慣の確立、規範意識に則った行動力を育成する、学力の向上と充実錬磨に努める、環境を大切にし、世界に貢献できる人材の育成に努める。

点検・評価の日程

平成29年4月	前年度学校自己評価への評価結果報告及び継続的取組の促進
平成29年12月	評価項目の確認と評価方法の決定
平成30年3月末	評価実施
平成30年4月	集計と分析
平成30年5月	職員への結果の公表、評価結果の公表

保護者会アンケート

保護者会により、本校が指導の目標に挙げる四つの分野【クラブ活動、学校行事など】、【生活、規律などの指導】、【学習、進路などの指導】、【環境教育、社会教育】について、各保護者がどのような割合で期待するかについてのアンケート調査を行いました。集計については、全体で【クラブ活動、学校行事など】17.4%、【生活、規律などの指導】17.6%、【学習、進路などの指導】41.4%、【環境教育、社会教育】23.6%となり、学年・コースにおいてもほぼ同様の結果でした。

授業アンケート

生徒がよい授業を受け、学力向上につなげるには、教員一人ひとりが授業改善に取り組む必要があります。教員自らが自分の授業を振り返り、自らの課題について分析できるよう生徒による授業アンケートを1学期末と2学期末の2回実施し、各教員に詳細を知らせるとともに、保護者には概要を公表します。第1回・第2回ともに結果は概ね好評価でした。

大学等との連携事業

学習・進学意欲の向上、各分野への興味・関心の深化を目的として、各学年・コースで、三重大学や鳥羽水族館との連携事業を実施しました。勢水丸乗船やウニの発生観察などの校内では実施することが難しい実験・実習の体験、大学教授による専門的な講義の受講、大学生・大学院生との交流は、参加した生徒の知的好奇心や創造力を育み、幅広い興味・関心を持って積極的に学習に取り組む姿勢を身につけさせていると確信しています。



教職員海外研修

私学教職員海外研究派遣事業

派遣教諭	伊佐山 清実
視察先	アイルランド・イギリス
視察期間	8月6日(日)～15日(火)
視察 研究内容	多くの文豪や政治家を生み出したダブリンを巡り、この国の豊かな文化、悲しい歴史の両面を学ぶことができました。後半は、ブリテン島に渡り、新旧東西の文化が混ざり合う国際都市ロンドンを訪ね、EU離脱やテロなど、激動の時代にあるこの街の「いま」を実際に見ることができました。今回の経験を、今後の国際理解を促す教育活動に活かしていきたいと思っています。



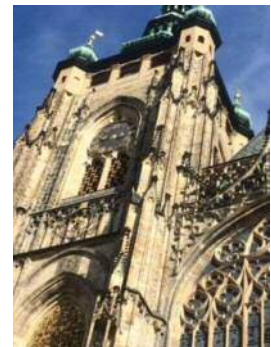
私学教職員海外研究派遣事業

派遣教諭	伊藤 文貴
視察先	南アフリカ（ケープタウン）
視察期間	8月5日（土）～8月19日（土）
視察 研究内容	<p>①バスコ・ダ・ガマをはじめとする大航海時代の冒険家が経由した喜望峰の見学。</p> <p>②ケープ特別自然保護区ならではの固有植物の観察。（フィンボスの観察）</p> <p>③本場アフリカでのサファリ見学。（野生動物保護区の視察）</p> <p>④かつてのアパルトヘイト政策がもたらした世界の格差社会の視察。</p> <p>⑤蔓延する結核・HIV（5人に1人が感染者）等の感染症対策に取り組む国境なき医師団の視察。</p> <p>⑥世界初の心臓移植手術が行われた施設の見学と今年で50年の歴史をもつ心臓移植の歩み。今後の教育活動に大いに役立つ研修でした。</p>



私学教職員海外研究派遣事業

派遣教諭	市川 みちよ
視察先	オーストリア・チェコ
視察期間	7月28日（金）～8月4日（金）
視察 研究内容	<p>国際化の時代となって久しい今日、多様な価値観をもって異文化と接することは、現代を生きる我々にとって必要不可欠な要素であります。異文化を享受し、共存していくための手がかりを、多民族を領内に抱えたオーストラリア、チェコの統治から覗うことができます。実際に現地を訪れることで、カトリックに根ざした文化受容、民族受容の一端を触れることができました。</p>



人権教育研修の推進

本校では、生徒たちには「うわさや偏見に流されず真実を確かめ自分自身の考えを持つ」「差別に立ち向かい行動する力をつける」「他者の異なった価値観を尊重しながら仲間同士のつながりを強める」ということを目標として人権教育を実施しています。

さらに毎年秋の校外宿泊学習へ参加する学年においては、人権問題に関わるコースを組み入れており、事前学習の成果を文化祭で発表します。その他の学年は人権サークルで検討された人権アン

ケートを回答し、文化祭で展示発表しています。中高それぞれ普段の生活において人権を意識することを念頭において活動しています。

教職員においては、本年も県人権教育課や人権センター主催の研修会へ積極参加することにより、人権意識の向上に努めると共に、学苑本部主催の夏期研修人権講演会を実施しています。



今年度は「いま、伝えたいこと～難聴者の一人として～」と題した講演を県聾学校の櫻井先生より拝聴し、障がいをもたれる方への認識を新たにしました。

また毎年教職員のフィールドワーク（毎年20数名の参加）を実施し、人権問題について積極的に取り組んでいる地域、組織に出向いて、直接体感することで感じ得たことを自ら再認識し、生徒への教育の一環として還元しています。（8月24日(木)奈良県御所市にある水平社博物館と水平社創設者の一人西光万吉が育った浄土真宗本願寺派西光寺）

人権教育については、学校のみでは推進することが難しいので、今後も地域や家庭と連携が重要と考えられます。

少子化に伴う生徒募集活動

高田中・高等学校公開イベント

小学生を対象とした「学びの広場 in 高田」・中学校入試説明会

高田の魅力を深めるべく興味あるイベントに取り組み、いかにして生徒確保を行うか重要な問題となっている昨今、私立中学校の魅力を最大限に発揮し、その一貫としてより知っていただくために、小学生（4・5年生）を対象とした「学びのひろば in 高田」を年3回開催し、情報発信に努めています。

また、受験生と保護者を対象とした中学入試説明会を9月23日（土、祝）と11月5日（日）に開催し、約450世帯・900名の参加がありました。

学びのひろば in 高田			
日時	8月20日（日）	11月5日（日）	2月10日（土）
テーマ	① 英語であそぼう ② プラネタリウム～四季の空～ ③ おもしろ社会科クイズ ④ 世界の国をめぐってQ	① 第8回たかだ算数オリンピック ② 部活動ってなに？～中学校の部活を体験しよう～	① たのしい理科実験 ② 平安王朝の世界へようこそ ③ 親子で楽しむ数学マジック ④ let' s cook
定員	120名（177名参加）	250名（138名参加）	120名（103名参加）



以上のイベントの他、広くマスコミを利用した広報活動や、塾を対象とした説明会を積極的に実施し、各地域で開催される私立中学展に向いてピーアールに努めています。

高等学校公開イベント・学校見学会・個別見学会



高等学校に関しては、教員が各中学校を訪問し受験生と保護者に対し、入試やより充実した本校の教育内容について詳細に説明しています。

各中学校訪問の他に学校見学会が8月26日(土)に開催され、中学生・保護者計1,363名が参加されました。更に、より本校を知りたい中学生・保護者を対象に10月21日・11月4日・11月18日・12月16日の各土曜日に個別見学会を開催し

ました。学校生活や授業内容及びクラブ活動について、在校生や卒業生と会話形式の説明や体感型のイベント等で実際の本校の良さを理解していただけるようピーアールしています。案内等は、本校在校生ボランティア160名により運営され、在校生のキャリア教育の一環としても役立っています。また、経済的に不安な家庭においても高等教育が安心して受けられるよう、国の就学支援金制度、県の減免制度に加え高田高等学校独自の助成金制度(教育充実費相当学助成)も充実させています。なお、対象基準は就学支援金加算制度に準じます。



学校見学会

日時	8月26日(土)
参加	約1,363名(生徒及び保護者)

個別見学会

日時	10月21日(土)・11月4日(土)・11月18日(土)・12月16日(土)
----	--

学校安全・生活指導、保健計画の推進

学校安全管理の立場から道路交通法改正に伴う交通ルールの遵守、自転車の安全点検校内安全点検などを実施すると共に、最近自転車絡む交通事故が多発している関係上、本校では毎年新入生に対して自動車学校から講師を招き、4月14日(金)に自転車交通安全講習を実施しました。

本校約900名の生徒が自転車通学をしており、学校周辺は狭い道路や見通しの悪い交差点が多いこともあり、事故をおこさないよう基本的なルールや事故の悲惨さを訴え、知識や技術の向上に努めるとともに生徒と教員が街頭登下校指導をするなど、マナーアップや安全意識の高揚にも傾注しています。このほか社会生活面において、5月18日(木)には携帯電話・スマートフォンの使用マナーやネットワークにつながることの利便性、SNSの危険性に関する携帯スマホ教室を、7月7日(金)には「薬の正しい使い方」と題して、学校薬剤師の秦賢司先生



による薬物乱用防止教室を開催しました。

また、18才より選挙権が与えられたことにより、高校3年生及び6年生を対象に、主権者としての自覚と選挙への意識の高揚をはかっています。

学校保健に関しては、校医健診や他の各種検査を通じ、生徒個々の健康状態を把握し常に健康管理に努めるとともに、保健だよりを毎月発行しその時期の内容に合った啓発に努めています。新たな感染症が発生した場合などの緊急対策や予防教育の推進についても積極的に取り組んでいます。

施設整備の整備事業実績

	業 者	金 額	施工・納品時期
多目的グラウンドトイレ敷設工事	藤原工業(株)	11,340,000円	4月1日～ 6月10日
第2体育館柔道場 床改修及び床下換気設備工事	(株)鴻池組	1,782,000円	5月27日～ 28日
ピッチングマシン 1台	(有)ヨシダ運動具店	972,000円	9月15日
電子黒板付プロジェクター 設置工事	リコージャパン(株)	28,498,176円	7月28日～ 8月28日
1号館黒板取替工事 11教室	奥山黒板(株)	1,544,400円	9月9・18日
本館講堂天井改修工事	(株)辻工務店・中部 都市建築設計事務所	43,930,000円	11月20日～ 3月8日
第1体育館3階卓球場床改修工事	(株)辻工務店	3,650,400円	12月3・4日
新JIS規格 生徒用机・椅子等 入替(高1)	愛知(株)	6,393,600円	平成30年3月 24・25日



多目的グラウンド トイレ



ピッチングマシン(野球部用)



電子黒板付プロジェクター



生徒用机・椅子

財務の概要

資金収支計算書の概要

資金収支計算書は、会計年度の教育・研究その他の活動に対応するすべての収支内容並びに支払資金の収支のてん末を明らかにしたものです。

本学苑の資金収支決算総額は43億8,000万円となり、前年度の決算額と比較し2,300万円の増額となりました。

平成29年度 資金収支計算書総括

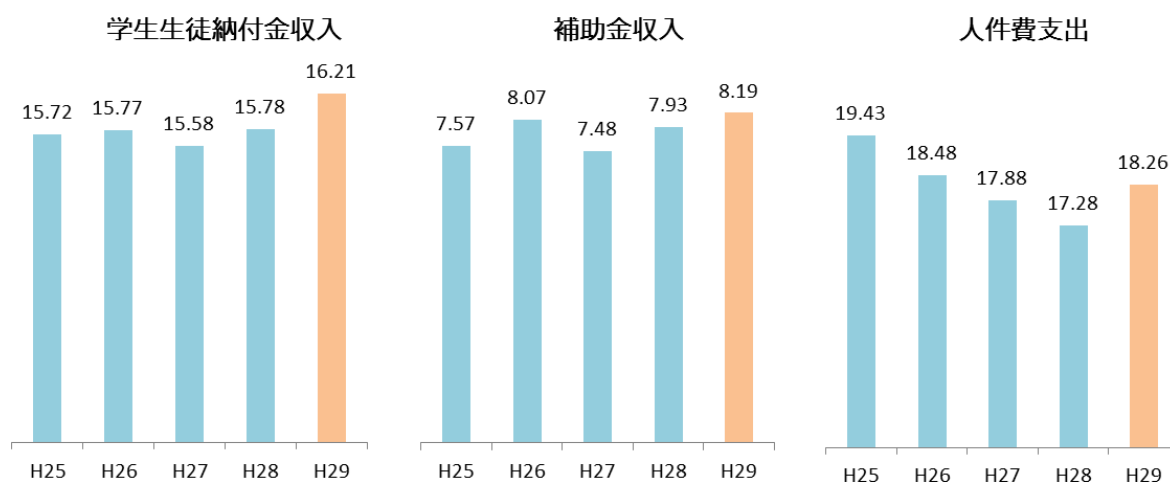
(単位：千円)

収入の部			支出の部		
科目	決算	前年比	科目	決算	前年比
学生生徒等納付金収入	1,620,865	42,276	人件費支出	1,825,969	97,234
手数料収入	52,760	1,439	教育研究経費支出	315,829	37,622
寄付金収入	9,287	▼776	管理経費支出	82,718	▼10,345
補助金収入	819,094	25,315	借入金等利息支出	0	▼488
資産売却収入	10,219	▼100,101	借入金等返済支出	0	▼130,000
付随事業・収益事業収入	16,859	74	施設関係支出	59,202	▼28,828
受取利息・配当金収入	11,660	▼3,794	設備関係支出	57,433	33,359
雑収入	102,366	43,513	資産運用支出	721,860	51,321
借入金等収入	0	0	その他の支出	1,051,605	▼14,122
前受金収入	317,493	6,450	資金支出調整勘定	△65,542	▼17,364
その他の収入	1,508,926	47,779			
資金収入調整勘定	△415,776	▼67,820			
当年度収入合計	4,053,753	▼5,644	当年度支出合計	4,049,075	18,391
前年度繰越支払資金	327,081	28,713	翌年度繰越支払資金	331,759	4,678
収入の部合計	4,380,834	23,069	支出の部合計	4,380,834	23,069

(注) △は計算書式上のマイナス表示、▼は比較上のマイナス表示(以下同じ)。

前年比は平成28年度決算との比較です。

主要科目推移表(5ヶ年)



平成29年度 資金収支計算書（短期大学）

（単位：千円）

収入の部			支出の部		
科目	決算	前年比	科目	決算	前年比
学生生徒等納付金収入	462,988	9,975	人件費支出	399,441	▼ 12,444
手数料収入	8,994	212	教育研究経費支出	119,694	12,004
寄付金収入	800	▼ 2,800	管理経費支出	27,271	▼ 8,038
補助金収入	125,916	▼ 1,765	借入金等利息支出	0	0
資産売却収入	0	▼ 100	借入金等返済支出	0	0
付随事業・収益事業収入	16,859	74	施設関係支出	510	510
受取利息・配当金収入	2	▼ 1	設備関係支出	25,499	12,553
雑収入	12,181	▼ 26,279	資産運用支出	0	0
借入金等収入	0	0	その他の支出	151,491	▼ 29,419
前受金収入	55,798	▼ 315	資金支出調整勘定	△ 34,983	▼ 18,266
その他の収入	190,261	29,588			
資金収入調整勘定	△ 65,399	35,663			
当年度収入合計	808,400	44,252	当年度支出合計	688,922	▼ 43,101
前年度繰越支払資金	73,956	▼ 3,688	翌年度繰越支払資金	116,592	42,636
収入の部合計	882,356	40,564	支出の部合計	805,514	▼ 465

平成29年度 資金収支計算書（中・高等学校）

（単位：千円）

収入の部			支出の部		
科目	決算	前年比	科目	決算	前年比
学生生徒等納付金収入	1,157,877	32,301	人件費支出	1,415,060	109,652
手数料収入	43,767	1,227	教育研究経費支出	196,136	25,618
寄付金収入	4,187	1,525	管理経費支出	34,993	912
補助金収入	693,177	27,080	借入金等利息支出	0	0
資産売却収入	0	0	借入金等返済支出	0	0
付随事業・収益事業収入	0	0	施設関係支出	56,093	▼ 31,937
受取利息・配当金収入	2	▼ 2	設備関係支出	31,163	20,035
雑収入	89,847	70,278	資産運用支出	0	0
借入金等収入	0	0	その他の支出	724,085	10,421
前受金収入	261,695	6,765	資金支出調整勘定	△ 25,886	▼ 404
その他の収入	704,093	▼ 62,411			
資金収入調整勘定	△ 350,377	▼ 103,483			
当年度収入合計	2,604,267	▼ 26,721	当年度支出合計	2,431,644	134,298
前年度繰越支払資金	206,089	38,994	翌年度繰越支払資金	150,051	▼ 56,038
収入の部合計	2,810,356	12,274	支出の部合計	2,581,694	78,259

活動区分資金収支計算書の概要

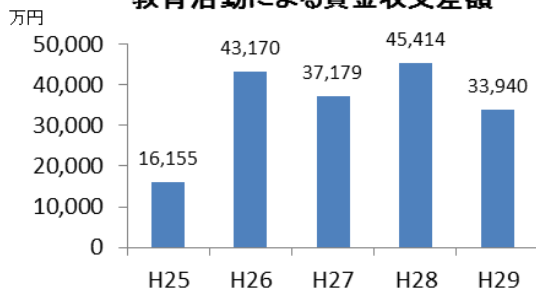
活動区分資金収支計算書では、資金収支計算書の決算額を「教育活動」「施設設備等活動」「その他の活動」の三つの活動区分ごとに区分し、活動ごとの資金の流れを明らかにします。

平成29年度 活動区分資金収支計算書

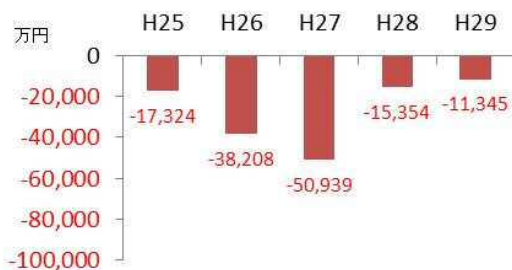
(単位:千円)

科 目		決算額	前年比	科 目		決算額	前年比		
教育活動による資金収支	収入	学生生徒等納付金収入	1,620,865	42,276	その他の活動による資金収支	収入	有価証券売却収入	10,219	10,219
		手数料収入	52,760	1,439			有価証券償還収入	0	▲110,220
		特別寄付金収入	0	▲3,500			長期火災保険特定資産取崩収入	0	▲34,131
		一般寄付金収入	9,287	2,725			預り金受入収入	782,817	15,809
		経常費等補助金収入	791,520	▲2,259			仮払金回収収入	24,824	1,284
		付随事業収入	16,859	74			立替金回収収入	38,234	6,728
		雑収入	102,366	43,513			修学旅行費預り資産取崩収入	64,801	657
		教育活動資金収入計	2,593,656	84,268			修学旅行費預り金受入収入	65,323	1,143
		人件費支出	1,825,969	97,234			卒業諸費預り資産取崩収入	15,904	644
	支出	教育研究経費支出	315,829	37,622		卒業諸費預り金受入収入	16,066	▲800	
管理経費支出		82,718	▲10,345	小計	1,018,188	▲108,667			
教育活動資金支出計		2,224,517	124,512	受取利息・配当金収入	11,660	▲3,794			
差引		369,139	▲40,244	その他の活動資金収入計	1,029,849	▲112,461			
調整勘定等	△29,739	▲74,495	支出	借入金等返済支出	0	▲130,000			
教育活動資金収支差額	339,400	▲114,739		有価証券購入支出	250,000	▲40,123			
施設設備等活動による資金収支	収入	施設設備補助金収入		27,574	27,574	預り金支払支出	778,674	9,734	
		施設設備売却収入		0	▲100	仮払金支払支出	24,824	1,284	
		施設設備拡充引当特定資産取崩収入		450,000	110,000	立替金支払支出	30,481	▲7,478	
		施設設備等活動資金収入計		477,574	137,474	修学旅行費預り資産繰入支出	65,323	1,143	
	支出	施設関係支出		59,202	▲28,828	修学旅行費預り金支払支出	64,801	657	
		設備関係支出		57,433	33,359	卒業諸費預り資産繰入支出	16,076	▲782	
第2号基本基金引当特定資産繰入支出	200,000	200,000		卒業諸費預り金支払支出	15,903	644			
施設設備拡充引当特定資産繰入支出	271,860	▲108,555		長期前払金支払支出	5,039	2,336			
施設設備等活動資金支出計	588,495	95,976	小計	1,251,122	▲162,585				
差引	△110,921	41,498	借入金等利息支出	0	▲488				
調整勘定等	△2,528	▲1,406	その他の活動資金支出計	1,251,122	▲163,073				
施設設備等活動資金収支差額	△113,449	40,091	差引	△221,274	50,612				
小 計	調整勘定等	0	0	その他の活動資金収支差額	△221,274	50,612			
	支払資金の増減額	4,678	6	前年度繰越収支資金	327,081	28,713			
				翌年度繰越支払資金	331,759	4,678			

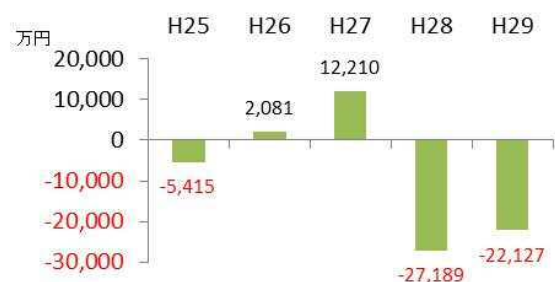
教育活動による資金収支差額



施設設備等活動による資金収支差額



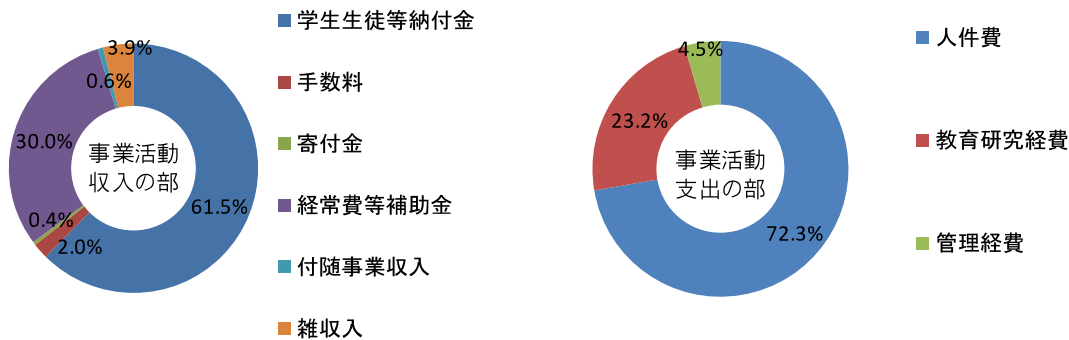
その他の活動による資金収支差額



事業活動収支計算書の概要

事業活動収支計算書では、当該会計年度の諸活動に対応する事業活動収入・支出の内容及び基本金組入後の均衡の状態を明らかにします。収支を経常的なものと臨時的なものに、さらに経常的な収支を教育活動と教育活動外とに分けて把握することができます。

科 目		決算額	%	科 目		決算額	%
教育活動収入の部	事業活動収入			特別収支	収入の部活動		
	学生生徒等納付金	1,620,865	61.5%		資産売却差額	219	0.0%
	手数料	52,760	2.0%		その他の特別収入	27,574	1.0%
	寄付金	11,516	0.4%		本部負担金収入	0	0.0%
	経常費等補助金	791,520	30.0%		特別収入計	27,793	1.1%
	付随事業収入	16,859	0.6%		支出の部活動		
	雑収入	102,442	3.9%		資産処分差額	291	0.0%
	教育活動収入計	2,595,960	98.5%		その他の特別支出	0	0.0%
	事業活動支出の部				本部負担金	0	0.0%
	人件費	1,832,545	72.3%		特別支出計	291	0.0%
教育研究経費	587,428	23.2%	特別収支差額	27,502			
管理経費	114,997	4.5%	(予備費)				
徴収不能額等	0	0.0%	基本金組入前当年度収支差額	100,153			
教育活動支出計	2,534,970	100.0%	基本金組入額合計	△ 301,241			
教育活動収支差額	60,990		当年度収支差額	△ 201,088			
教育活動外収入の部	収入の部活動			前年度繰越収支差額	△ 3,950,111		
	受取利息・配当金	11,660	0.4%	基本金取崩額	0		
	その他の教育活動外収入	0	0.0%	翌年度繰越収支差額	△ 4,151,199		
	教育活動外収入計	11,660	0.4%				
	教育活動外支出の部	支出の部活動			(参考)		
借入金等利息		0	0.0%	事業活動収入計	2,635,414		
その他の教育活動外支出		0	0.0%	事業活動支出計	2,535,261		
教育活動外支出計	0	0.0%					
教育活動外収支差額	11,660						
経常収支差額	72,651						



基本金について

基本金には第1号基本金から第4号基本金まで4種類の基本金があります。

第1号基本金	施設設備の整備拡充のために支出した金額であり、本年度の組入額は1億124万円でした。 主な内訳は、中高講堂の耐震化改修工事と生徒用机・椅子の入替によるものです。
第2号基本金	施設設備を取得するために、事前に組入れる金額で、本年度は2億円を組入れました。
第3号基本金	教育・研究活動の維持向上を目的とした教育研究基金、奨学基金等の設定であり、本学苑は組入れを行っていません。
第4号基本金	学校法人の円滑な運営に必要な運転資金の額であり、今年度は妥当性の検証の結果、妥当と判断されるため、組入・取崩共に行っていません。

短期大学

事業活動収支計算書

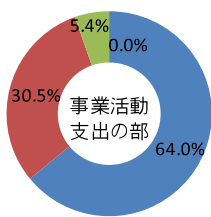
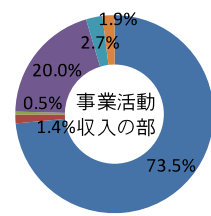
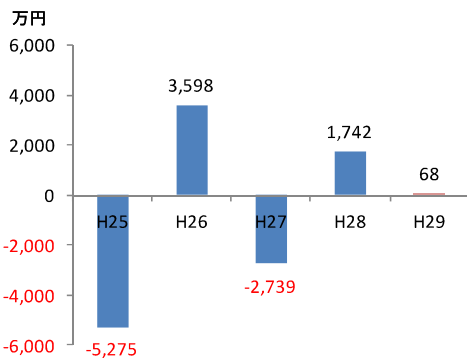
(単位：千円)

科 目		決算額	%	前年比	科 目		決算額	%	前年比
教育活動収入の部	事業活動収入				特別収入	収入の部			
	学生生徒等納付金	462,988	73.5%	9,975		資産売却差額	0	0.0%	▲60
	手数料	8,994	1.4%	212		その他の特別収入	0	0.0%	0
	寄付金	2,908	0.5%	▲911		本部負担金収入	0	0.0%	0
	経常費等補助金	125,916	20.0%	▲1,765		特別収入計	0	0.0%	▲60
	付随事業収入	16,859	2.7%	74		支出の部			
	雑収入	12,256	1.9%	▲26,705		資産処分差額	291	0.0%	291
	教育活動収入計	629,920	100.0%	▲19,120		その他の特別支出	0	0.0%	0
	事業活動支出の部					本部負担金	0	0.0%	0
	人件費	403,001	64.0%	▲11,475		特別支出計	291	0.0%	291
	教育研究経費	191,932	30.5%	16,285		特別収支差額	-291		▲351
	管理経費	34,304	5.4%	▲7,193		(予備費)			0
徴収不能額等	0	0.0%	0	基本金組入前当年度収支差額	394		▲17,089		
教育活動支出計	629,237	100.0%	▲2,383	基本金組入額合計	▲9,341		▲17,186		
教育活動収支差額	683		▲16,738	当年度収支差額	▲8,947		▲34,275		
教育活動外収入の部	事業活動外収入				前年度繰越収支差額	▲2,361,434		25,329	
	受取利息・配当金	2	0.0%	▲1	基本金取崩額	0		0	
	その他の教育活動外収入	0	0.0%	0	翌年度繰越収支差額	▲2,370,381		▲8,947	
	教育活動外収入計	2	0.0%	▲1	(参考)				
	借入金等利息	0	0.0%	0	事業活動収入計	629,922		▲19,181	
	その他の教育活動外支出	0	0.0%	0	事業活動支出計	629,528		▲2,092	
教育活動外支出計	0	0.0%	0	経常収支差額	685		▲16,738		

財務比率推移表 (事業活動収支関係)

比 率	H27	H28	H29	全国平均	比 率	H27	H28	H29	全国平均
人件費率	65.9	63.9	64.0	59.2	学生生徒等納付金比率	73.5	69.8	73.5	76.4
人件費依存率	89.6	91.5	87.0	77.4	経常寄付金比率	0.1	0.6	0.5	1.2
教育研究経費率	32.8	27.1	30.5	31.3	経常補助金比率	17.6	19.7	20.0	13.8
管理経費率	5.9	6.4	5.4	9.6	減価償却額率	11.5	11.0	12.4	12.3
借入金等利息率	0.0	0.0	0.0	0.1	経常収支差額率	△4.6	2.7	0.1	△0.4
事業活動収支差額比率	△4.6	2.7	0.1	△0.3	教育活動収支差額比率	△4.6	2.7	0.1	△1.4
基本金組入後収支比率	106.0	96.1	101.4	111.1	全国平均は前年度の値				

教育活動収支差額の推移



中・高等学校

事業活動収支計算書

(単位：千円)

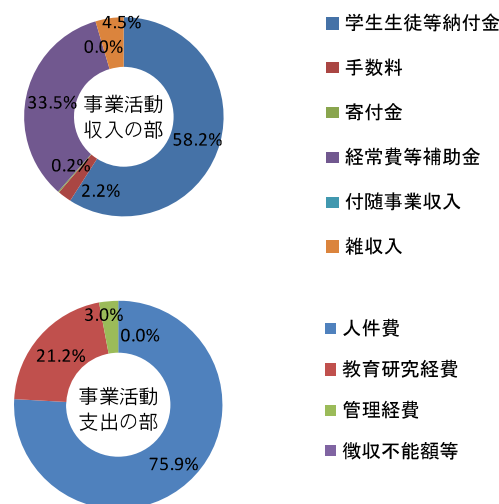
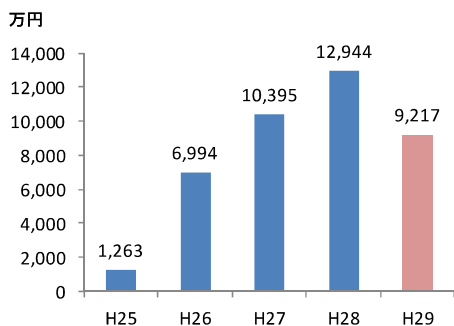
科 目					科 目				
	決算額	%	前年比		決算額	%	前年比		前年比
教育活動収入の部	事業活動収入の部				特別収入				
	学生生徒等納付金	1,157,877	58.2%	32,301	資産売却差額	0	0.0%		0
	手数料	43,767	2.2%	1,227	その他の特別収入	27,574	1.4%		27,574
	寄付金	4,300	0.2%	131	本部負担金収入	0	0.0%		0
	経常費等補助金	665,603	33.5%	▲494	特別収入計	27,574	1.4%		27,574
	付随事業収入	0	0.0%	0	事業活動支出の部				
	雑収入	89,847	4.5%	70,278	資産処分差額	0	0.0%		0
	教育活動収入計	1,961,394	98.6%	103,443	その他の特別支出	0	0.0%		0
	事業活動支出の部				本部負担金	0	0.0%		0
	人件費	1,418,075	75.9%	111,831	特別支出計	0	0.0%		0
教育研究経費	395,496	21.2%	26,729	特別収支差額	27,574			27,574	
管理経費	55,657	3.0%	2,154	〔予備費〕				0	
徴収不能額等	0	0.0%	0	基本金組入前当年度収支差額	119,740			▲9,698	
教育活動支出計	1,869,229	100.0%	140,713	基本金組入額合計	△87,370			117,483	
教育活動収支差額	92,165		▲37,270	当年度収支差額	32,371			107,784	
教育活動外収入の部	事業活動収入の部				前年度繰越収支差額	235,997			▲75,414
	受取利息・配当金	2	0.0%	▲2	基本金取崩額	0			0
	その他の教育活動外収入	0	0.0%	0	翌年度繰越収支差額	268,367			32,371
	教育活動外収入計	2	0.0%	▲2					
	事業活動支出の部								
借入金等利息	0	0.0%	0						
その他の教育活動外支出	0	0.0%	0						
教育活動外支出計	0	0.0%	0						
教育活動外収支差額	2		▲2						
経常収支差額	92,166		▲37,272	事業活動収入計	1,988,970			131,015	
				事業活動支出計	1,869,229			140,713	

財務比率推移表（事業活動収支関係）

比 率	H27	H28	H29	全国平均	比 率	H27	H28	H29	全国平均
人件費率	72.9	70.3	72.3	64.1	学生生徒等納付金比率	58.8	60.6	59.0	53.3
人件依存率	124.0	116.1	122.5	120.3	経常寄付金率	0.1	0.2	0.2	1.7
教育研究経費率	18.9	19.8	20.2	27.4	経常補助金率	33.8	35.9	33.9	37
管理経費率	2.7	2.9	2.8	5.6	減価償却額率	10.5	12.5	11.7	10.3
借入金等利率	0.0	0.0	0.0	0.3	経常収支差額率	5.5	7.0	4.7	2.6
事業活動収支差額比率	5.5	7.0	6.0	4.1	教育活動収支差額比率	5.5	7.0	4.7	2.3
基本金組入後収支比率	114.0	104.6	98.3	106.9					

全国平均は前年度の値

教育活動収支差額の推移



平成29年度補助金一覧表

(単位：千円)

補助金名	当年度 ①	前年度 ②	差異 ①－②
短期大学補助金 合計	125,916	127,681	△ 1,765
国庫補助金 計	121,333	113,609	7,724
私立大学等経常費補助金	121,333	113,609	7,724
地方公共団体補助金 計	4,583	14,072	△ 9,489
結核健康診断予防接種費補助金	83	82	1
高等教育機関魅力向上支援補助金	4,500	13,990	△ 9,490
中・高等学校補助金 合計	693,177	666,097	27,080
高等学校補助金 計	539,451	515,458	23,993
国庫補助金 計	17,460	0	17,460
私立大学等研究設備整備費等補助金 (IT)	6,573	0	6,573
私立学校施設整備費補助金(吊天井)	10,887	0	10,887
地方公共団体補助金 計	521,992	515,458	6,534
私立高等学校等振興補助金	511,758	507,849	3,909
授業料減免補助金	1,403	1,486	△ 83
入学金補助金	1,283	1,148	135
人権教育推進事業費補助金 (人権教育推進事業)	192	625	△ 434
結核健康診断予防接種費補助金	202	205	△ 3
外国人語学指導助手補助金	300	300	0
教育改革推進事業補助金	300	600	△ 300
私立高等学校振興補助金 (津市)	2,638	2,655	△ 18
私立高等学校振興補助金 (鈴鹿市)	382	371	12
国際交流事業補助金 (津市)	100	100	0
スポーツ奨励補助金 (津市)	61	120	△ 59
校舎等耐震化整備費補助金(吊天井)	3,375	0	3,375
中学校補助金 計	153,726	150,639	3,087
国庫補助金 計	5,614	0	5,614
私立大学等研究設備整備費等補助金 (IT)	1,985	0	1,985
私立学校施設整備費補助金(吊天井)	3,629	0	3,629
地方公共団体補助金 計	148,112	150,639	△ 2,528
私立高等学校等振興補助金	146,881	150,485	△ 3,604
人権教育推進事業費補助金 (人権教育推進事業)	106	154	△ 49
校舎等耐震化整備費補助金(吊天井)	1,125	0	1,125
総 計	819,094	793,779	25,315

貸借対照表の概要

貸借対照表は、平成30年3月31日現在の財政状態を示しています。

平成29年度 貸借対照表（総括）

（単位：千円）

科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	8,172,382	8,090,712	81,670
有形固定資産	6,320,625	6,501,141	△ 180,516
土地	1,025,123	1,025,123	0
建築物	4,015,891	4,169,568	△ 153,677
構築物	881,183	934,698	△ 53,515
教育研究用機器備品	123,892	100,557	23,335
管理用機器備品	11,191	8,055	3,136
図書	223,584	221,230	2,354
車輜	7,243	11,491	△ 4,248
学苑林	29,919	29,919	0
建設仮勘定	2,599	500	2,099
特定資産	1,752,110	1,490,250	261,860
退職給与引当特定資産	312,490	312,490	0
施設設備拡充引当特定資産	1,239,620	1,177,760	61,860
第2号基本金引当特定資産	200,000	0	200,000
その他の固定資産	99,647	99,321	326
借地権	2,258	2,258	0
電話加入権	1,286	1,286	0
施設利用権	498	579	△ 81
ソフトウェア	1,396	1,646	△ 249
有価証券	80,070	80,070	0
差し入れ保証金	350	350	0
長期前払金	13,789	13,133	656
流動資産	529,795	476,202	53,593
現金預金	331,759	327,081	4,678
未収入金	104,733	50,957	53,776
前払金	2,776	578	2,198
立替金	30,513	38,266	△ 7,753
修学旅行費預り資産	53,046	52,524	522
卒業諸費預り資産	6,967	6,794	173
資産の部合計	8,702,177	8,566,914	135,263
固定負債	248,633	242,057	6,576
退職給与引当金	248,633	242,057	6,576
流動負債	471,438	442,905	28,534
未払金	64,964	47,707	17,257
前受金	317,493	311,043	6,450
預り金	28,968	24,826	4,143
修学旅行費預り金	53,046	52,524	522
卒業諸費預り金	6,967	6,804	163
負債の部合計	720,072	684,962	35,110
基本金	12,133,304	11,832,063	301,241
第1号基本金	11,761,304	11,660,063	101,241
第2号基本金	200,000	0	200,000
第4号基本金	172,000	172,000	0
繰越収支差額	△ 4,151,199	△ 3,950,111	△ 201,088
翌年度繰越収支差額	△ 4,151,199	△ 3,950,111	△ 201,088
純資産の部合計	7,982,105	7,881,952	100,153
負債及び純資産の部合計	8,702,177	8,566,914	135,263

注記 1. 重要な会計方針

(1) 引当金の計上基準

○徴収不能引当金・・・・・・・・・・未収入金の徴収不能に備えるため、個別に見積もった徴収不能見込額を計上している。

○退職給与引当金

(短期大学) 退職金の支給に備えるため、期末要支給額 106,510,250円 の100%を基にして私立大学退職金財団に対する掛金の累積額と交付金の累積額との繰入調整額を加減した金額を計上している。

(中学校及び高等学校) 退職金の支給に備えるため、期末要支給額 1,009,203,191円 から三重県私学振興会より交付金相当額を控除した金額の100%を計上している。

(2) その他重要な会計方針

○有価証券の評価基準及び評価方法

移動平均法に基づく原価法である。

2. 重要な会計方針の変更等

該当無し

3. 減価償却額の累計額の合計額

5,489,232,783円

4. 徴収不能引当金の合計額

0円

5. 担保に供されている資産の種類及び額

0円

6. 翌会計年度以降の会計年度において基本金へ組入れを行うこととなる金額

24,072,300円

7. 当該会計年度の末日において第4号基本金に相当する資金を有していない場合のその旨と対策

第4号基本金に相当する資金を有しており、該当しない。

8. その他財政及び経営の状況を正確に判断するために必要な事項

(1) 有価証券の時価情報

① 総括表

(単位 円)

	当年度(平成30年3月31日)		
	貸借対照表計上額	時 価	差 額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	360,070,136	389,926,391	29,856,255
(うち満期保有目的の債券)	(29,679,462)	(29,795,212)	(115,750)
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	510,000,000	462,724,134	△47,275,866
(うち満期保有目的の債券)	(510,000,000)	(462,724,134)	(△47,275,866)
合 計	870,070,136	852,650,525	△17,419,611
(うち満期保有目的の債券)	(539,679,462)	(492,519,346)	(△47,160,116)
時価のない有価証券	-	-	-
有価証券合計	870,070,136	-	-

② 明細表

(単位 円)

種 類	当年度(平成30年3月31日)		
	貸借対照表計上額	時 価	差 額
債 券	590,000,000	563,445,300	△26,554,700
株 式	40,390,674	60,185,180	19,794,506
投資信託	239,679,462	229,020,045	△10,659,417
貸付信託	-	-	-
その他	-	-	-
合 計	870,070,136	852,650,525	△17,419,611
時価のない有価証券	-	-	-
有価証券合計	870,070,136	-	-

財務比率推移表

(単位：%)

比 率	H27	H28	H29	全国平均	評	算式 (×100)	説 明
固 定 資 産 率	94.2	94.4	93.9	84.1	▼	$\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{総 資 産}}$	資産構成の全体的なバランスはどうか
有 形 固 定 資 産 率	78.3	75.9	72.6	60.2	▼	$\frac{\text{有 形 固 定 資 産}}{\text{総 資 産}}$	土地・建物等の有形固定資産の構成比が資産構成上バランスがとれているか
特 定 資 産 率	15.0	17.4	20.1	19.0	△	$\frac{\text{特 定 資 産}}{\text{総 資 産}}$	長期に亘って特定の目的のために保有する金融資産の蓄積状況はどうか
流 動 資 産 率	5.8	5.6	6.1	15.9	△	$\frac{\text{流 動 資 産}}{\text{総 資 産}}$	資産構成の全体的なバランスはどうか
固 定 負 債 率	2.8	2.8	2.9	6.4	▼	$\frac{\text{固 定 負 債}}{\text{総 負 債} + \text{純 資 産}}$	長期的な負債構成のバランスと比重はどうか
流 動 負 債 率	6.8	5.2	5.4	5.3	▼	$\frac{\text{流 動 負 債}}{\text{総 負 債} + \text{純 資 産}}$	短期的な負債構成のバランスと比重はどうか
内 部 留 保 率	9.5	14.2	16.6	25.4	△	$\frac{\text{運 用 資 産} - \text{総 負 債}}{\text{総 資 産}}$	特定資産と有価証券と現金預金を合計した「運用資産」から総負債を引いた金額の総資産に占める割合はどうか
運 余 資 産 率	58.1	77.1	82.8	1.8	△	$\frac{\text{運 用 資 産} - \text{外 部 負 債}}{\text{経 常 支 出}}$	一年間の経常的な支出規模に対してどの程度の運用資産が蓄積されているか
純 資 産 率	90.4	92.0	91.7	88.3	△	$\frac{\text{純 資 産}}{\text{総 負 債} + \text{純 資 産}}$	純資産の、総負債および純資産の合計額に占める構成割合はどうか
繰 越 収 支 差 額 率	△ 46.2	△ 46.1	△ 47.7	△ 15.3	△	$\frac{\text{繰 越 収 支 差 額}}{\text{総 負 債} + \text{純 資 産}}$	繰越収支差額の、総負債および純資産の合計額に占める構成割合はどうか
固 定 比 率	104.3	102.6	102.4	95.3	▼	$\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{純 資 産}}$	土地・建物等の固定資産に対してどの程度純資産が投下されているか
固 定 長 期 適 合 率	101.1	99.6	99.3	88.9	▼	$\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{純 資 産} + \text{固 定 負 債}}$	自己資金のほか長期借入金で固定資産を取得する原則にどの程度適合しているか
流 動 比 率	84.5	107.5	112.4	298.6	△	$\frac{\text{流 動 資 産}}{\text{流 動 負 債}}$	1年以内に償還する流動負債に対して1年以内に現金化が可能な流動資産はどの程度用意されているか
総 負 債 比 率	9.6	8.0	8.3	11.7	▼	$\frac{\text{総 負 債}}{\text{総 資 産}}$	純資産に対する他人資金の比重はどうか
負 債 比 率	10.7	8.7	9.0	13.3	▼	$\frac{\text{総 負 債}}{\text{純 資 産}}$	他人資金である総負債が自己資金である純資産を上回っていないか
前 受 金 率	100.5	105.2	104.5	488.0	△	$\frac{\text{現 金 預 金}}{\text{前 受 金}}$	翌年度分の入学金等が現金預金の形で適切に保有されているか
退 職 給 与 引 当 特 定 資 産 保 有 率	109.4	129.1	125.7	58.2	△	$\frac{\text{退 職 給 与 引 当 特 定 資 産}}{\text{退 職 給 与 引 当 金}}$	退職給与引当金に見合う資産を特定資産としてどの程度保有しているか
基 本 金 比 率	98.8	99.9	103.0	97.1	△	$\frac{\text{基 本 金}}{\text{基 本 金 要 組 入 額}}$	基本金組入対象資産額である要組入額に対する組入済基本金の割合はどうか
減 価 償 却 比 率	45.2	45.5	47.9	52.3	～	$\frac{\text{減 価 償 却 累 計 額 (図 書 除 却)}}{\text{減 価 償 却 資 産 取 得 価 額 (〃)}}$	減価償却累計額が取得価格に対してどの程度占めているか
積 立 率	31.4	34.9	36.4	76.6	△	$\frac{\text{運 用 資 産}}{\text{要 積 立 額}}$	持続的かつ安定的な経営を継続するために必要な運用資産の保有状況はどうか

評価指標 △：高い値が良い ▼：低い値が良い ～：どちらともいえない
 全国平均は前年度の値

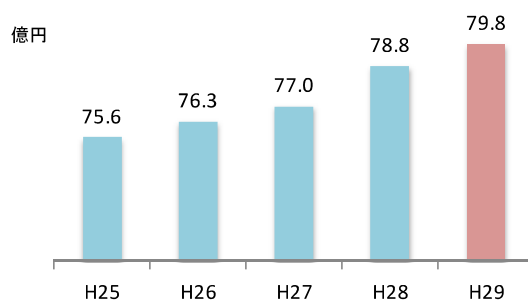
財産目録

(単位：千円)

一、	資	産	総	額	8,702,177	
内	1.	基	本	財	産	6,292,102
	2.	運	用	財	産	2,410,075
二、	負	債	総	額	720,072	
三、	正	味	財	産	7,982,105	

項	目	数	量	金	額								
(一)	資	産			8,702,177								
1.	基	本	財	産	6,292,102								
(ア)	土	地	102,865.92	m ²	1,025,123								
(イ)	建	物	39,650.03	m ²	4,015,891								
(ウ)	構	築	物	222	点	881,183							
(エ)	図	書	100,401	冊	223,584								
(オ)	教	育	研	究	用	機	器	備	品	18,629	点	123,892	
(カ)	管	理	用	機	器	備	品	179	点	11,191			
(キ)	車	輛	8	台	7,243								
(ク)	ソ	フ	ト	ウ	ェ	ア	3	本	1,396				
(ケ)	建	設	仮	勘	定	2,599							
2.	運	用	財	産	2,410,075								
(ア)	現	金	及	び	預	金	331,759						
(イ)	修	学	旅	行	費	預	り	資	産	53,046			
(ウ)	卒	業	諸	費	預	り	資	産	6,967				
(エ)	未	収	入	金	104,733								
(オ)	借	地	権	1	点	2,258							
(カ)	電	話	加	入	権	15	基	1,286					
(キ)	施	設	利	用	権	3	点	498					
(ク)	差	し	入	れ	保	証	金	350					
(ケ)	有	価	証	券	29,832,179.00	株	80,070						
(コ)	土	地	61,913.00	m ²	29,919								
(サ)	退	職	給	与	引	当	特	定	資	産	312,490		
(シ)	施	設	機	備	拡	充	引	当	特	定	資	産	1,239,620
(ス)	第	2	号	基	本	金	引	当	特	定	資	産	200,000
(セ)	長	期	前	払	金	13,789							
(ソ)	前	払	金	2,776									
(タ)	立	替	金	30,513									
(二)	負	債			720,072								
1.	固	定	負	債	248,633								
(ア)	退	職	給	与	引	当	金	248,633					
2.	流	動	負	債	471,438								
(ア)	短	期	借	入	金	0							
(イ)	未	払	金	64,964									
(ウ)	前	受	金	317,493									
(エ)	預	り	金	88,982									
(1)	職	員	源	泉	等	預	り	金	28,968				
(2)	修	学	旅	行	費	預	り	金	53,046				
(3)	卒	業	諸	費	預	り	金	6,967					

正味財産の推移



平成 29 年度 事業報告書

学校法人 高田学苑

平成 30 年 6月 発行

学校法人 高田学苑 学苑本部

〒514-0125

三重県津市大里窪田町字下沢2865番地の1

TEL 059-231-0367 FAX 059-231-0370

